

自然の中へ

《 第 9 集 》

結成10周年記念号

岸和田健老大学 歩こう会

「自然の中へ」第9集

— 目 次 —

《寄稿》	スペイン幻想	正井学長	3
例会	記録 (第164回～夏季例会外)		5
歩こう会	10年の足跡		56
	10年のプロフィール*		59
健歩証			66
文集			69

井 齊 實	自然と釣り
井 上 英 代	アルプスの乙女、ユングフラウへの旅
今 西 幸 子	いつだって青春
加 地 行 夫	思いつくまま
金 田 定 之	集団の中の孤独
崎 田 小香枝	汕頭市を訪れて
軒 隆	カナダ旅行記
森 富 香	住めば楽し
諸 節 光 吉	わが町の歩こう会
山 本 光 男	歩こう会10年を顧みる

(50音順)

《 寄 稿 》

ス ペ イ ン 幻 想

学 長 正 井 尚 夫

8月のある日、私は、イベリア半島南端の、地中海を見下すヒデラルファロの丘にいた。ここは十一世紀にイスラムの勢力に抵抗したスペイン人キリスト教徒の国土回復運動（レコンキスタ）によって追いつめられたアラブ最後の拠点であった所。いまも残る城砦跡の石段を登りつめると、眼下にマラガの市街が望めた。この町は、コスタ・デル・ソル（太陽海岸）の中心地。近年は国際的リゾート都市としてにぎわい、ピカソの生誕地としても知られている。

それは、ハッと息をのむ眺めだった。前方南は、あと百キロでアフリカに達するという青いなめらかな海。後ろ三方は、すさんだ赤茶色の岩山で、そのなだらかなスロープに人口五十万の町並みが広がっている。中央の、高い塔を持つカテドラル（大寺院）は、くすんで、もう何百年も深い瞑想に沈んでいるかのよう。それを取り囲んで白い壁と薄茶の屋根を持つ民家がひしめき、そっけない白亜のマンションが折り重なって山肌の単調さととけあっている。この乾いた風景は、ひどくメランコリックで、哀愁ただよう廃墟か、鬼気せまるゴーストタウンのようにも感じられる。

そして、まばゆい太陽の輝き。建物でも大通りでも海岸の並木でも港の船体でも光と影がせめぎあう。ローマ時代のコロセウムに似た円形闘牛場では、明暗が拮抗して、くっきりとした弧がすり鉢の底を二分している。私は果てしない幻想に憑かれ、翳りの中に何か言い表し難い怪奇なものを見たように思った。

この前後、同国内の寺院や王宮を訪ねて、薄暗い廊下や部屋の中で「闇の中には、ドウエンデと呼ばれるスペイン土着の霊がひそんでいる。ガウディ（幻想的建築を創造したスペインの建築家）やピカソの奇想も、フラメンコや闘牛の極致

もこの魔力によってもたらされている」というスペイン人の考え方を聞かされた
が、もしかしたら、丘の上から私が見たものは、ドウエンデであったかも知れな
い。

× × ×

8月下旬、私は10日ばかり、スペイン・ポルトガルを回ってきた。日本看護
協会大阪府支部の桑原富士子支部長、砂田美智子・大阪大学付属病院看護部長ら
の同支部役員、いづみ健老大学理事長夫人の古川美登里さん、写真家の横野幸秀
さん、それに妻とその友人たちが加わって総勢14名の旅であった。

私は一昨年夏から今春にかけて、看護協会府支部の35年史作りに参画したが、
その編集に、世界各地でカメラの旅を重ねてきた横野さんから、地の果てまで
続いているヨーロッパの、ひまわり畑の壮観について聞かされ「本が出来上がっ
たら、ぜひみんなで」という話が、ひょうたんから駒が出た形で実現したものだ
った。

日程は空路ロンドン経由で、スペインの首都マドリッド(2泊)へ。さらに空
路バルセロナ(1泊)からマラガ(1泊)へ。ついで、バスでグラナダからコル
ドバ(1泊)セビリア(1泊)を経て国境を越え、ポルトガルの首都リスボン
(2泊)へ。空路、アムステルダム経由、北回り(1泊)で帰国という忙しいもの
だった。

肝心のひまわりが盛りを過ぎていたのは残念だったが、この間、教会、修道院、
大寺院、古城、王宮、美術館、あるいはユーラシア大陸最西端のロカ岬などを回
った。食傷するほど見過ぎて、少々不消化気味ではあったが、多くのことを学ぶ
ことができた。頭の中でイメージしていたものと現実は大大きく違って、私に
とってのスペインは、陰うつで不気味な謎の国であった。

例会記録

第164回～夏季例会外

第164回	平井峠越え	6頁
165	葛城登山	8
166	東海自然歩道(石山寺一宇治川)	10
例会外	金剛山	12
167	黒鳥公園	14
168	東海自然歩道(宇治川一郷之口)	16
169	友ガ島	18
170	ボンデン山一根本寺	20
171	岬公園一深日一小島天神	22
172	高野町石道	24
173	水間寺	26
174	松尾寺(納会)	28
175	神社参拝	30
176	神於山	32
177	久米田寺一緑と太陽の丘	34
178	金熊寺(観梅)	36
179	お菊山	38
180	竹内街道一二上山	40
181	包近の桃	42
182	神於山	44
183	つつじ見物(塚)	46
184	10周年記念一泊有馬温泉	48
185	延命寺一観心寺一河合寺	50
186	和泉葛城山	52
例会外	赤目四十八滝一青蓮寺川	54

第164回例会 昭和62年6月28日(日)

天候・気温 晴 30℃ 担当リーダー A

- ◎ 行先 平井寺越え 11km
- ◎ 参加人員 28名
- ◎ コース 岸和田駅＝深日駅－橋逸勢の墓－孝子駅－高仙寺－平井峠－蓮乗寺－紀の川駅

○行程記録

- | | |
|------------------|-------------------|
| 8:01 岸和田駅発 | 11:10 平井峠中腹10分休憩 |
| 8:30 深日駅 10分休憩 | 11:35 平井峠 昼食休憩1時間 |
| 9:20 橋逸勢の墓 10分休憩 | 13:10 蓮乗寺 10分休憩 |
| 9:50 孝子駅 10分休憩 | 13:30 紀の川駅 解散 |
| 10:20 高仙寺 20分休憩 | |

記事

平井峠越えといえばもうお馴染みのコースである。が、この時季は初めてである。深日まで電車で行って、歩いて孝子まで帰って来るといったことが許されるのも、歩こう会であるからこそである。

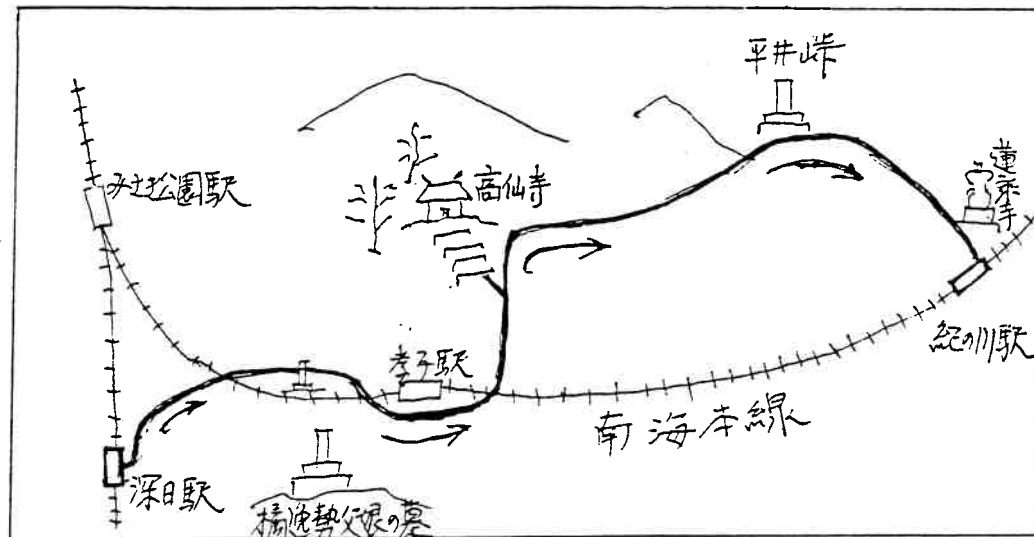
孝子駅前で電線の雀のごとく一列に並んで涼をとる。風があり比較的しのぎやすい。高仙寺はいつものように石階段で汗をかいた。平井峠への道、途中までは整備され幅広い。右折後は夏草の茂った、やっと一列で歩けるほどの山道だ。長袖のシャツがものをいう。峠の手前で枯大木が横たおして道を塞いでいた。こういうにして下をくぐり抜けた。

昼食後有志が大木の除去をはじめた。老人とは思えない積極性、山歩き人間の一番大切な行為である。雨の六月、久しぶりに歩いた気持、良い奉仕をしたい気持、足取りも軽く紀の川駅へ。

参加者

井齊、河野、小西、軒、宮内(富)、加藤、宇治、川口、宮内(藤)、大北、加地(求)、阪森、十和、田良原、中村、松本、井上(晴)、内田、加地(行)、金田、福本、松村、古林、中野、森(一)、外3名

コース略図



(金田記)

第165回例会 昭和62年7月12日(日)

天候・気温 曇 32℃ 山頂 24℃ 担当リーダー B

- ◎ 行先 葛城登山 11km
- ◎ 参加人員 17名
- ◎ コース 岸和田＝塔原－葛城山頂－牛滝＝岸和田

○行程記録

9:25 岸和田発	13:30 山頂発
10:04 塔原着	14:20 地藏道16丁 休憩10分
10:40 途中休憩10分	15:00 新道 休憩10分
11:30 ブナ林 休憩10分	15:35 牛滝着
12:15 山頂着 昼食休憩	15:50 バス発車

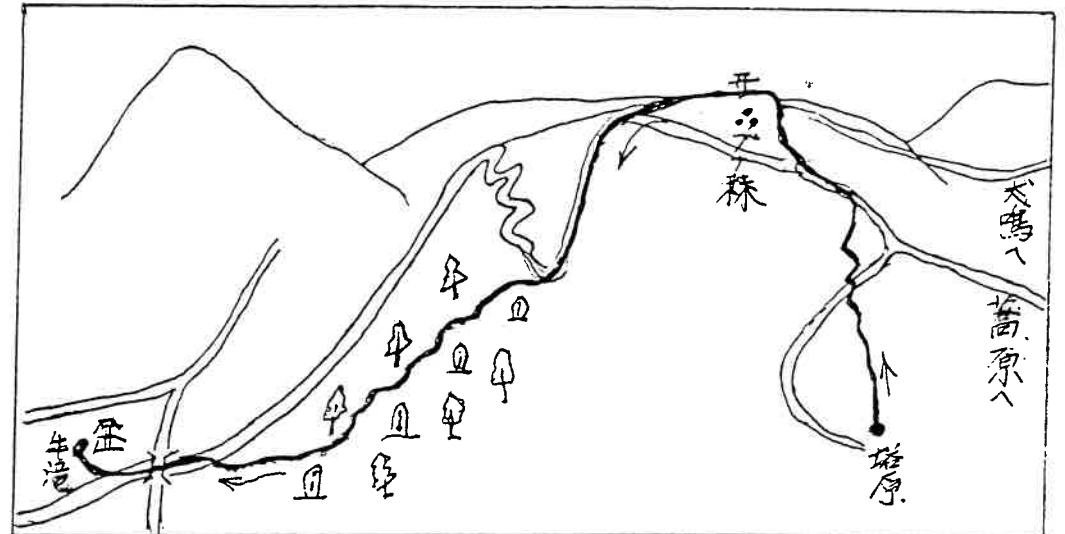
記事

天の恵みか、歩こう会皆さんの精進?の良さか、最高の登山日和となった。塔原までのバスは貸切同然。薄日の射す急坂、大石、小石に足を取られながらも元気に登る。途中、清水さんとはしばしの別れ。

涼風に助けられ、ブナ林では大木の荒れを話題に山頂着。ゆっくりと昼食をとり出発。新道からの眺め、眼下に大阪湾新空港建設現場であろう作業船が群れをなしている。二色の浜、久米田池、泉州高校と点々としているのが見える。突風が来て(会旗を忘れてきた)リーダーに天罰が下る。あゝ帽子よ左様奈良、地藏道に入る、手入れのよい杉林とは逆に道の悪いこと。雑草をかきわけ前進、ようやく新道に到着。牛滝大威徳寺を横眼にバス停着。本日の行程終了。

参加者 井斎、小西、河野、軒、加藤、深見、宇治、大北、阪森、中村、井上(晴)、金田、中西、森(富)、中野、下章、清水

コース略図



(阪森記)

第166回 例会 昭和62年7月26日(日)

天候・気温 晴 34℃ 担当リーダー C

- ◎ 行先 東海自然歩道 石山寺-宇治川 19km
- ◎ 参加人員 8名
- ◎ コース 岸和田駅=新今宮=梅田=石山駅=上千町-岩間寺-炭山-志津川-仏徳山-京阪宇治駅

○行程記録

6:09 岸和田	11:00 清滝宮 昼食1時間
7:17 梅田	14:15 炭山 15分休憩
8:18 石山駅	15:35 志津川
9:03 上千町	16:05 仏徳山 15分休憩
10:00 岩間寺 15分休憩	17:00 京阪宇治駅

記事

連日の猛暑、距離19km、集合6時と悪条件が重なったが、参加した8人はいずれも脚に自信のある人ばかり。岩間寺への急坂も問題なく到着。参詣をすませ、東海自然歩道と呼ぶに相応しい旧巡礼道の急坂を一気に下り、たんたんとしたアスファルト道に出る。ここから志津川までの約13kmはすべて舗装路で、気温の上昇に伴い、猛暑との戦いとなるので気がかりであったが、一同大変元気で快調なペースで清滝宮に到着。

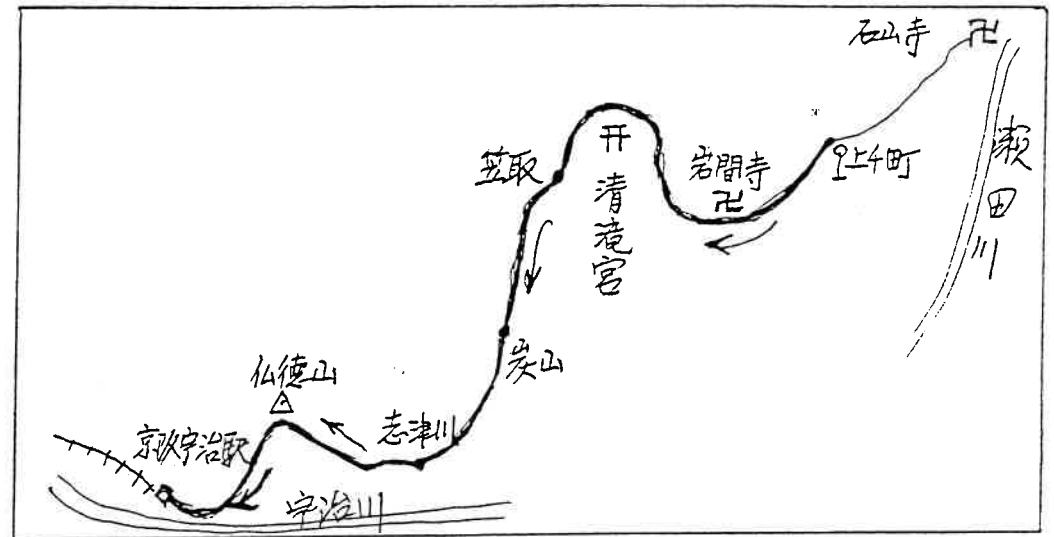
早朝出発であったので昼食、休憩。偶然、社務所裏に名水の出る井戸を見つけ一同大喜び。再びこの辺に来ることがあれば忘れず立ち寄りたいたいと思いつつ出発。

ここから志津川までは予想通り頭上から照りつける太陽、脚下からはアスファルトの反射熱に悩まされながらも、途中、山中の湧水を引いたパイプから流れ出る冷水で顔や頭を洗う等の変化を楽しみながら志津川到着。

そこからアスファルト道にサヨナラをして、うっそうとした竹林や松や檜の森林の中の小径の柔らかい土の感覚を心より楽しみながら、予定の時刻より若干おくらせて仏徳山到着。踏破した距離は19kmであるが、炎天下の焼け付いたアスファルト道であることを思うと30km位歩いた値打のある行程であった。

参加者 井齊、小西、軒、宮内(富)、宮内(藤)、阪森、金田、芥川

コース略図



(宮内記)

例会外 昭和62年8月9日(日)

天候・気温 晴 34℃

◎ 行先 金剛山 7 km

◎ 参加人員 8名

◎ コース 岸和田駅⇨河内長野駅⇨金剛山登山口⇨金剛山頂⇨千早城趾⇨登山口⇨河内長野駅

○行程記録

6:45 岸和田駅発	12:00 出発
8:00 河内長野着	12:10 転法輪寺
8:20 // (バス) 発	12:30 葛木神社
8:50 登山口着	13:20 千早城趾着
10:30 金剛山頂	14:00 登山口着
10:40 国見城趾 昼食	14:26 河内長野行バス乗車

記事

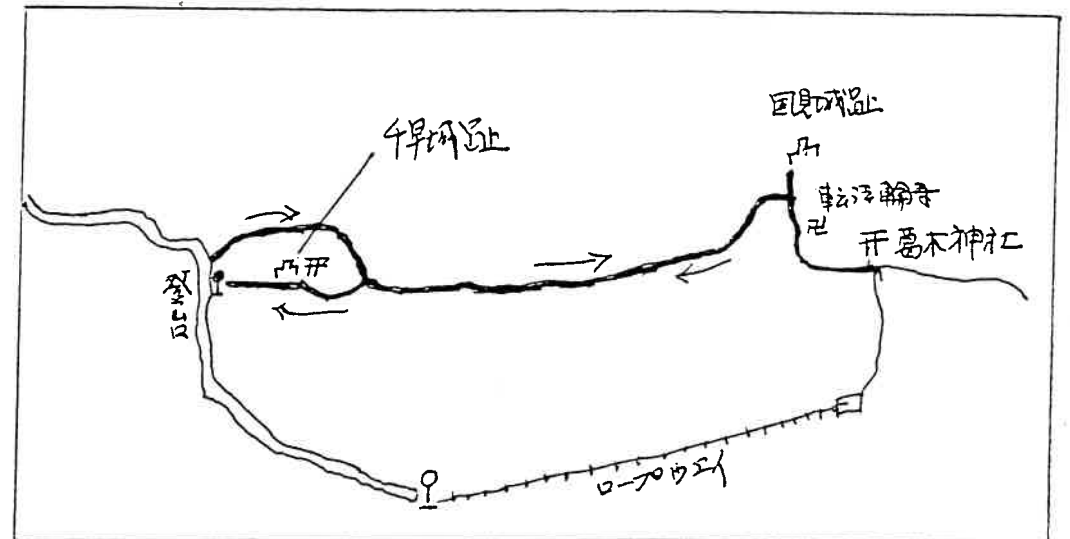
夏休み中の特別例会であったので、参加者8名と若干少なかった。大阪府で一番高い山(頂上は奈良県)であるので、数回の休憩を交えながらユックリとしたペースで登った。

登山道はよく整備されており、急な坂道も案外楽に登り終えて、一同元気で山頂に到着。所要時間は僅か1時間40分と予想外に早く登りおえた。国見城趾ですばらしい眺望に堪能しながら、昼食を兼ねて80分の大休止。下界の暑苦しさと違い山頂は24度と涼しい別天地であった。

帰路は登りとは打ってかわり快調なペースで、参加者全員、登山での疲れも知らない程の元気さであった。千早城趾では大楠公の遺徳を偲びながら約30分休憩。長い階段道を降りて再び暑い下界へ舞い戻った。

参加者 小西、宮内(富) 軒、宮内(藤)、阪森、金田、森(一)、芥川

コース略図



(宮内記)

第167回例会 昭和62年9月6日(日)

天候・気温 晴 31℃ 担当リーダー A

◎ 行先 黒鳥公園 10km

◎ 参加人員 21名

◎ コース 岸和田駅前→摩湯→観音寺→成福寺→黒鳥公園→蔭涼寺→
聖神社→葛葉稲荷

○行程記録

8:45 岸和田駅前	12:05 黒鳥公園出発
9:15 摩湯バス停	12:30 蔭涼寺 10分休憩
9:45 観音寺 15分休憩	13:05 聖神社 15分休憩
10:10 成福寺 10分休憩	13:45 葛葉稲荷 15分休憩
10:50 黒鳥公園 70分昼食休憩	14:00 " 解散

記 事

摩湯で2名を加え総勢21名。秋とは名ばかりのこの暑さでは、これでよしとしなくてはならないか。

今日のコースは舗装路が殆んどで暑さが身にこたえる。観音寺では落雷の跡がさほど目立たなくなった大楠の下で涼をとる。黒鳥公園への道は畦道を歩いたが、これが唯一の地道である。公園のグラウンドでハンドボールの練習に余念のない少女達を見ながら早目の昼食をとった。聖神社までの道は腹ごしらえをしてからが良いと考えたからだ。

途中、蔭涼寺で一对の大銀もくせいを見ながら少憩。やがて鶴山台団地がみえて来る。聖神社はもう近い。神社では上空をゆっくり過ぎる飛行船を見る。珍しいなあと誰かが嘆声をあげる。信太の稲荷さんで少憩後解散。かけ値なし暑い一日であった。

参加者 井斎、河野、河辺、小西、宮内(富)、深見、川口、宮内(藤)、村上、加地(求)、阪森、松本、井上(晴)、内田、加地(行)、金田、北口、中西、松村、下章、山本

コース略図



(金田記)

第168回 例会 昭和62年9月27日(日)

天候・気温 晴 24℃ 担当リーダー B

- ◎ 行先 東海自然歩道 宇治川-郷之口 10km
- ◎ 参加人員 22名
- ◎ コース 岸和田=ナンバ=淀屋橋=宇治-天ヶ瀬ダム-白山神社-郷之口

○行程記録

7:23 岸和田発	12:05 山中三叉路附近 昼食
8:30 淀屋橋発	13:00 " 発
9:30 宇治着 15分休憩	14:15 郷之口着
10:10 天ヶ瀬ダム着 15分休憩	14:51 " 発バス
11:30 白山神社着 10分休憩	15:20 宇治駅着

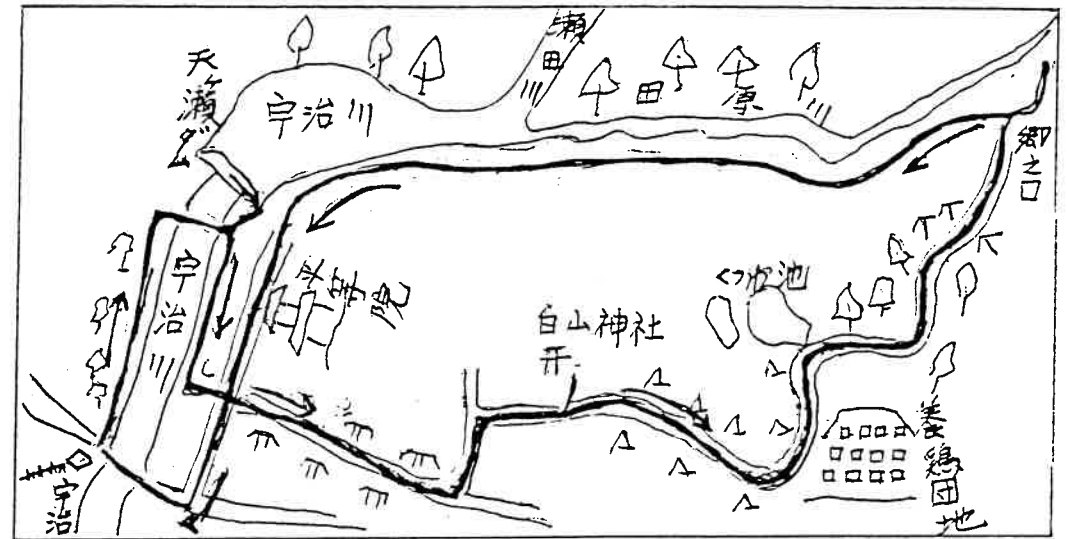
記事

好天にめぐまれた本日の歩こう会例会。宇治川には川中に大勢の釣人が腰まで水につかって何を釣るのか(多分魚でしょう?)たのしんでいられる。我々はそれを横目に天ヶ瀬ダム着。アヒルの行列に拍手を送りながら出発。

村中を行くと汗ばむ程、山中に入ると冷気が身にしみる。三叉路附近で昼食。食後、若さあふるる彼女達?縄飛びに打ち興じていられる。郷之口までは平坦な道。バス待の間(約30分)名産のお茶を頂く人、お土産を買う人、さまざまに過ごし、宇治駅着、解散。

参加者 井斎、河野、河辺、小西、軒、平見、川口、高畑、宮内、村上、植山、阪森、中村、金田、北口、松村、安浪、森(富)、中野、森(-)、井上(英)、外1名

コース略図



(阪森記)

第169回 例会 昭和62年10月4日(日)

天候・気温 晴 27℃ 担当リーダー C

◎ 行先 友ガ島 6km

◎ 参加人員 27名

◎ コース 岸和田=加太~野奈浦-砲台跡-灯台-大展望台-野奈浦~
加太-淡島神社

○ 行程記録

8:22 岸和田	13:00 大展望台
9:20 加太	14:00 野奈浦
10:00 加太港	14:30 加太港
10:30 野奈浦	14:50 淡島神社
11:30 灯台 昼食 1時間休憩	15:40 加太駅

記事

快晴、暑からず寒からず、絶好の行楽日和。

友ヶ島への海上もベタ凧で、浜風が心地よい。鯛釣りの小舟の間を通り野奈浦に到着。今日は歩くことよりも、友ヶ島の景色を楽しむのが主目的であるので、ユックリとした速度で“話し”“笑い”“喰べ”小学生に戻ったような気分で砲台跡に到着。

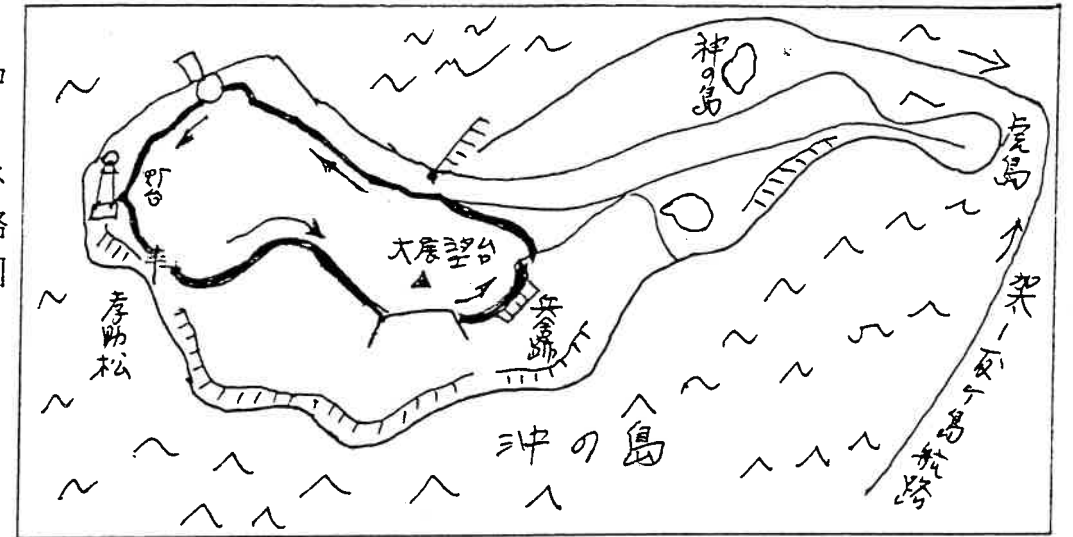
半ば倒壊状態で、戦時中はとても近寄れなかったところが、今は観光資源になっており感慨一しおであった。

ついで見晴しのよい灯台に到着。昼食。崖の下の海には鯛釣り舟が何十隻も糸をたれており、また淡路島がついそこに浮かんでおり、初秋のすばらしい風景を満喫した。帰路、加太港到着時間が早かったので、予定外に淡島神社に参拝。楽しかった本日の例会を終了した。

参加者

小西、軒、菟、深見、今西、宇治、高畑、宮内(藤)、大北、加地(求)、川崎、阪森、十和、田良原、中村、加地(行)、金田、北口、中西、福本、安浪、下章、中野、清水、山本、外2名

コース略図



(宮内記)

第171回例会 昭和62年11月8日(日)

天候・気温 晴 15℃ 担当リーダー B

◎ 行先 岬公園ー深日ー小島天神 10km

◎ 参加人員 25名

◎ コース 岸和田駅=岬公園駅ー海岸道ー深日駅ー多奈川駅前ー小島天神^三
多奈川駅

○行程記録

8:44 岸和田駅	13:00 小島天神 15分休憩
9:15 岬公園駅 15分休憩	13:42 //バス発車
10:10 深日魚市場 10分休憩	14:00 多奈川駅解散
10:50 深日港 以後追加コース となる	
11:45 中ノ峠附近 昼食休憩45分	

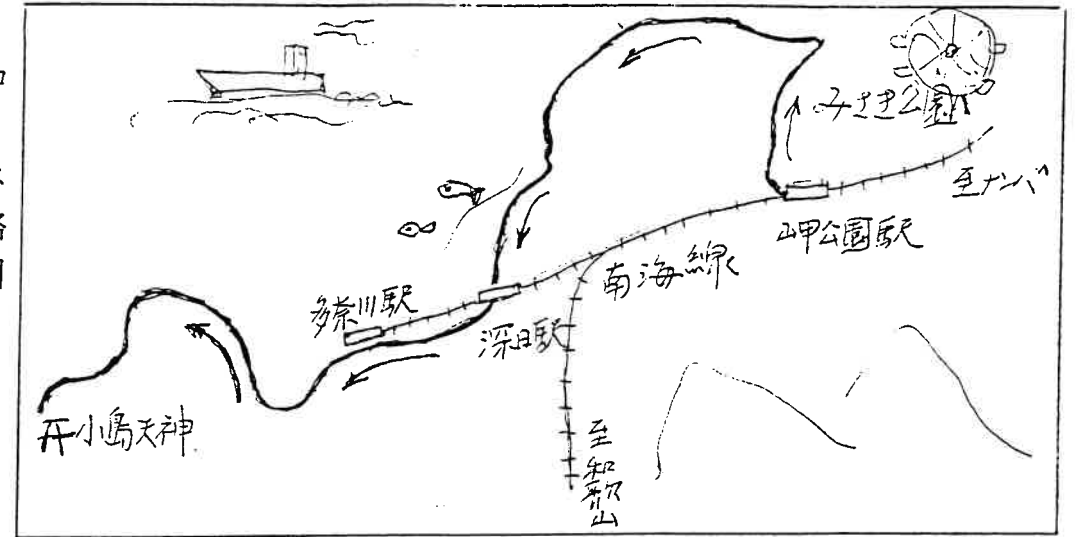
記事

夜来の雨も晴れ上りスッキリした好天となる。岬公園駅で参加者25名はゆっくりと公園道を海岸へ出る。さすがに海辺の道は風も強く冷気が身にしみる。沢山の釣人が寒気も平気で楽しんでいる。ビクのカレイや名も知らぬ魚をほこらしげに見せてくれる。深日魚市場は日曜でせり市は休みらしい。

我々も少憩の後フェリー乗場へ向かう。本日の予定はこれで終りであるが、参加者の意向に従って多奈川駅前を経て小島天神さんまで足を延ばす。小島天神は海の眺めが素晴らしい小高いところにある。少し歩いたところがバスの終点、もうバスが待っている。

参加者 朝比奈、井崎、河野、小西、軒、平見、薮、宮内(富)、宇治、高畑、宮内(藤)、大北、加地(求)、阪森、田良原、中村、加地(行)、金田、北口、安浪、森(富)、中野、山本、芥川、外1名

コース略図



(阪森記)

第172回 例会 昭和62年11月22日(日)

天候・気温 晴 22℃ 担当リーダー C

◎ 行 先 高野町石道 10km

◎ 参加人員 24名

◎ コー ス 岸和田＝下古沢－笠取峠－慈尊院－真田庵－九度山駅

○行程記録

7:55 岸和田発	12:00 昼食40分間
8:40 ナンパ発	14:30 慈尊院
9:42 下古沢着	15:00 真田庵
11:55 笠取峠	15:30 九度山駅 解散

記 事

好天に恵まれ絶好の歩こう会日和。高野町石道という歩こう会の目玉コースでもあり、24名の参加者。一同元気一ぱい柿畑のつづく急坂を笠取峠へ向かって出発する。時間は充分あるので周囲の風景を賞でながらユックリしたペースで歩く。

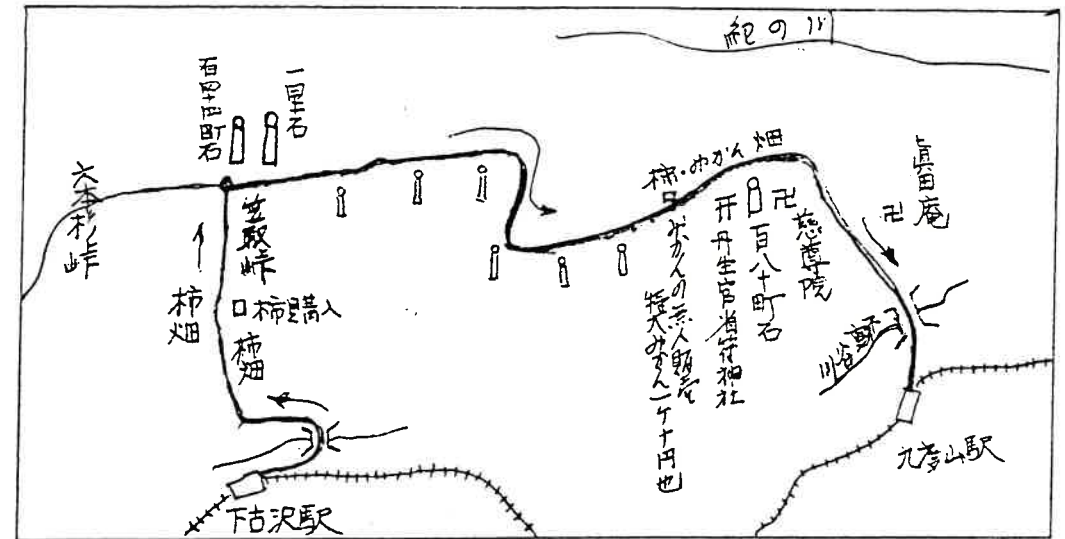
途中柿を収穫中の畑の前で休憩、おばあさんから大粒の富有柿を分けてもらい一人2ケずつ本日の参加賞として配給、早速むいて食べたが、そのおいしいこと天下の美味もこれに勝るものなし。柿のおかげで急坂も問題なく一気に笠取峠に到着。

あとはすばらしい紀の川を眼下に眺めながら慈尊院、180町石に到着、和尚より慈尊院の縁起を承り、大師の孝心の深さに今更ながら感銘をうける。

真田庵では庵守の人から茶菓の無料接待をうけ楽しい一ときを過ごす。予定より若干おくれたがユックリムードの楽しい一日であった。

参加者 朝比奈、井斎、河野、河辺、小西、軒、平見、荻、宮内(宮)、
植田、宇治、宮内(藤)、村上、植山、阪森、金田、中西、松村、
安浪、清水、北沢、芥川、外2名

コース略図



(宮内記)

第173回 例会 昭和62年12月13日(日)

天候・気温 晴 11℃ 担当リーダー A

◎ 行先 水間寺 8km

◎ 参加人員 26名

◎ コース 福祉センター→流木→貝塚山荘→釘無堂→水間寺

○行程記録

8:05 福祉センター	10:15 貝塚山荘 15分休憩
9:02 流木事務所前 13分休憩	11:20 釘無堂 記念撮影
9:45 池の端で 10分休憩	11:35 水間寺 解散

記 事

福祉センターから流木まで約1時間の道程は、その気になればいか様にも変化がとれる。ほんの50mほどだが地道も歩いた。曲るべき角を曲らなかつたり変化をつけて楽しんだ。流木事務所前で4名を吸収し、総勢は26名にふくらむ。

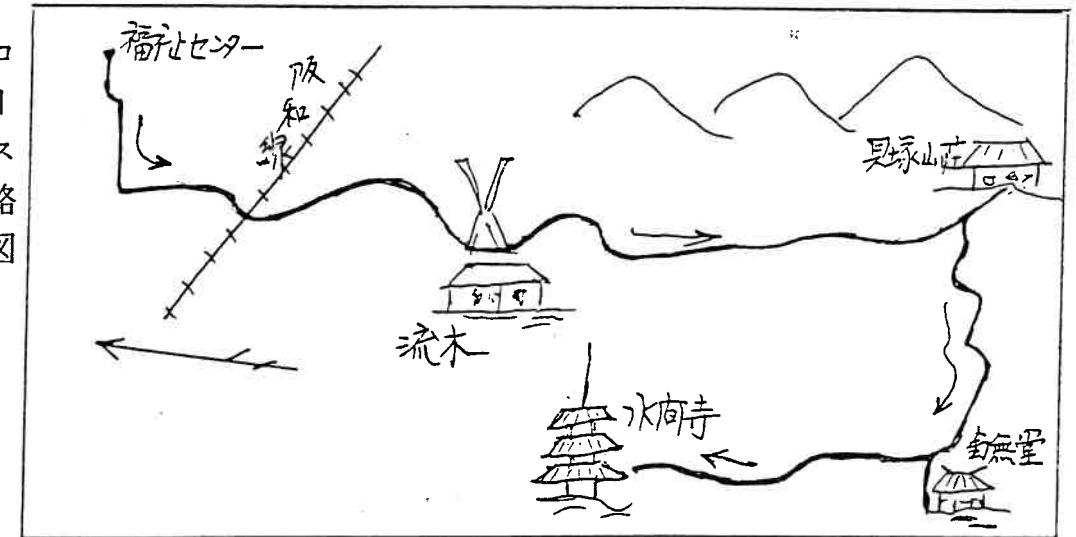
貝塚山荘までの1時間は、朝露に濡れた畦道や起伏の多い農道を歩き、しっかり防寒対策した服装をゆるめるほどのぬくもりようである。山荘でのどをうるほして、最終行程にとりかかる。釘無堂で記念撮影。その間カメラマンの山本さんがジョークをとぼしたり、にぎやかであった。

予定より15分おくれて水間寺に到着。好天に恵まれ愉快的な半日であった。解散後11名が食堂で昼食をとり、コースを逆行して約5kmを歩き、修齊小学校前でさようなら。

参加者

朝比奈、井斎、小西、軒、川口、高畑、宮内(藤)、大北、阪森、田良原、中村、井上(晴)、金田、福本、安浪、古林、中野、清水、北沢、山本、米沢、芥川、外4名

コース略図



(金田記)

第174回 例会 昭和62年12月20日(日)

天候・気温 晴 14℃ 担当リーダー B

- ◎ 行先 松尾寺(納会) 9km
- ◎ 参加人員 35名
- ◎ コース 岸和田^{バス}＝福田－北坂三叉路－菅原神社－春木町－松尾寺－稲葉＝岸和田

○行程記録

9:00 岸和田駅バス停発	12:00 松尾寺 会食
9:25 福田バス停 10分休憩	15:00 " 出発
10:45 菅原神社 15分休憩	15:40 稲葉バス停 解散

記事

今年最終の歩こう会、例年通り松尾寺で納会となる。

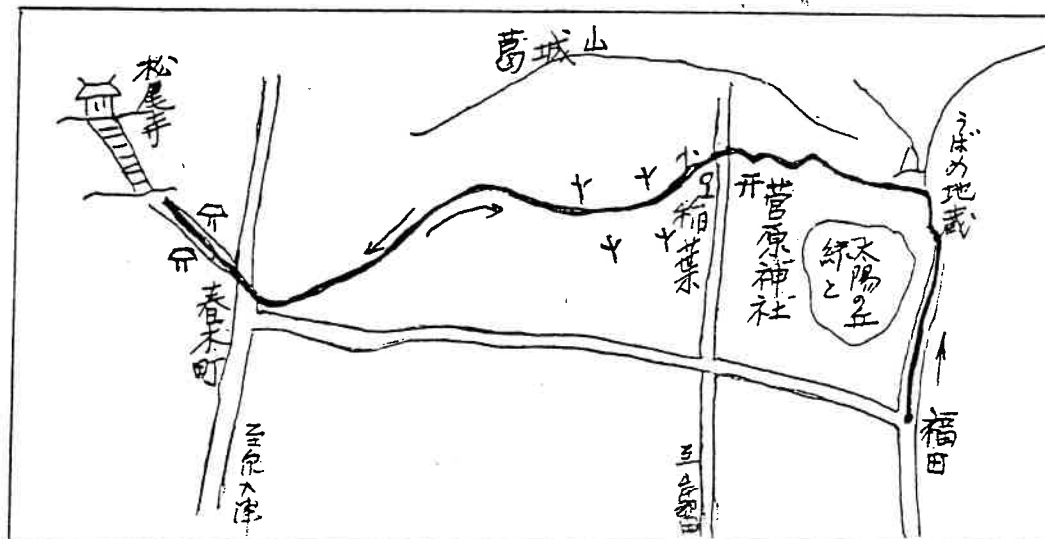
福田で全員35名集合、本隊と設営隊の二手にわかれて出発。12月とも思えぬ暖かさにめぐまれて元気一杯。稲葉辺りは空港関係の道路工事で山並みも様変わり、道に迷う場面もあったが、無事定刻到着。

全員席につき幹事さんからの報告。北沢さんの音頭で乾盃、後は吞んで歌って踊っての3時間。丁度時間になりました。で散会。

稲葉バス停までは案外早く着き解散。

- 参加者 朝比奈、井斎、河野、河辺、小西、平見、薮、宮内(富)、石橋
 勝沼、深見、宇治、川口、高畑、宮内(藤)、村上、植山、加地(求)、
 阪森、十和、中村、内田、加地(行)、金田、中西、安浪、森(富)、
 中野、森(一)、清水、北沢、山本、米沢、芥川、外1名

コース略図



(阪森記)

第175回 例会 昭和63年1月10日(日)
 天候・気温 晴 8℃ 担当リーダー C

- ◎ 行先 神社参拝 10km
- ◎ 参加人員 29名
- ◎ コース 福祉センター→泉光寺→北坂三叉路→山直神社→積川神社→稲葉神社

○行程記録

8:30 福祉センター出発	10:20 山直神社
9:20 泉光寺	11:00 積川神社
9:40 葛城町	11:30 稲葉神社 解散

記事

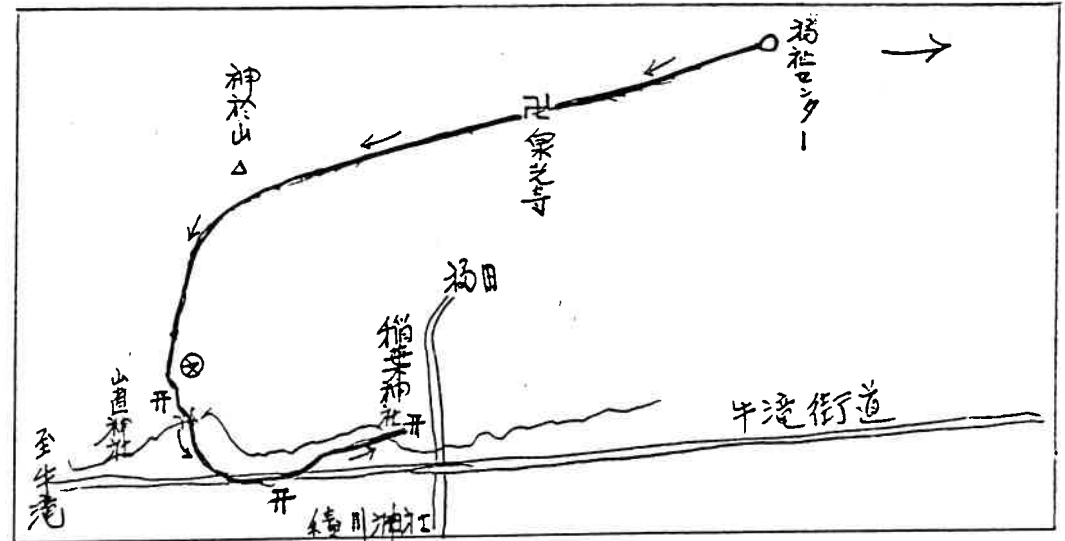
最低気温零度、最高気温8度で、この冬一番の冷え込みであるが、快晴で雨の心配のないのが何よりであった。

参加者も神社参拝とのことで29名とますますの盛況であった。泉光寺からは大学院の山本さんの先導で竹林の間の小径を通り、神於山山ろくにある山直神社に到着する。殆んど参加者が初めての神社で、本殿は勿論、灯ろうなども皆江戸時代のもので、なかなか由緒ある神社である。

積川神社は再々お詣りをしているので皆おなじみであるが、正月のことで重文の神輿も初めて拝観をさせてもらった。その上、丁度十日戎の当日であったので、甘酒をご馳走になり、何となく幸先のよい気分になった。積川から旧道を通り稲葉神社に参詣。解散。

参加者 朝比奈、井齊、河野、河辺、小西、軒、宮内(富)、川崎、黒木、深見、宇治、宮内(藤)、大北、加地(求)、阪森、田良原、中村、井上(晴)、加地(行)、金田、安浪、下章、森(富)、中野、北沢、山本、石橋、外2名

コース略図



(宮内記)

第176回 例会 昭和63年1月24日(日)

天候・気温 曇時々晴 5℃ 担当リーダー A

- ◎ 行先 神於山 11km
- ◎ 参加人員 21名
- ◎ コース 岸和田駅前^バ宮の台^バ城見台^バ国見台^バウバメ地蔵^バ福田^バ泉光寺^バ福祉センター

○行程記録

8:25 岸和田駅前	9:55 ウバメ地蔵
8:45 宮の台バス停	10:30 福田
9:20 城見台	10:50 泉光寺 10分休憩
9:35 国見台 10分休憩	11:50 福祉センター 解散

記事

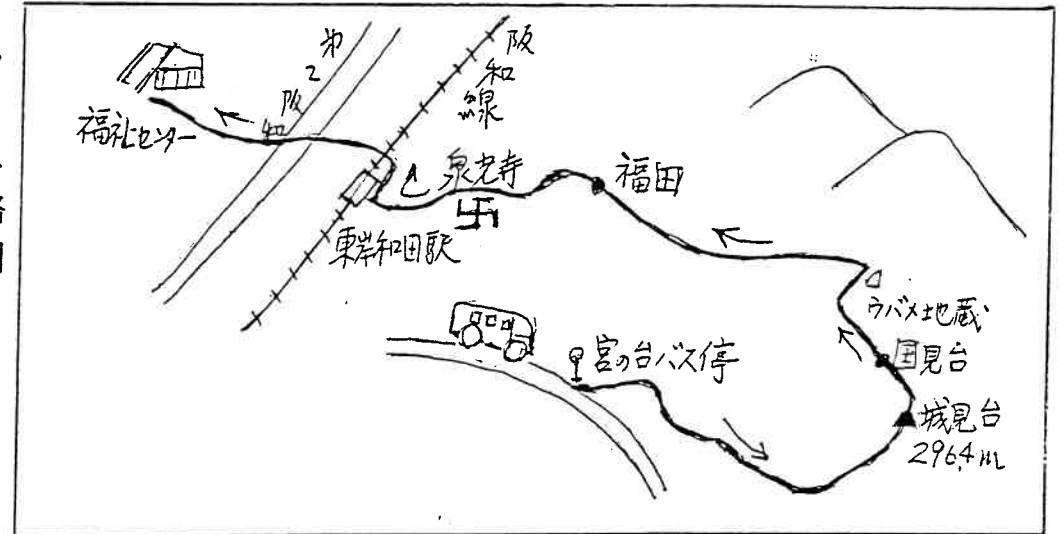
きびしい大寒の最中の例会とて、あるいは小人数例会となるのではないかとの懸念が見事外れて、健老の心意気を見せ参加者20名を超えた。

神於山登りでこのコースはあまり歩かないので目先が違ってよい。バスを降りていきなり階段道、少しはあたたまって本道に出たところで点呼。ここから城見台まで距離は長くないがゆっくり坂を登る。その城見台は眺望がきかない。そして国見台、ウバメ地蔵と快適な下り道、今日は大気が澄み眺めがよい。

久米田池、堺工業地帯の高い煙突群、そして大阪のツインビル、「アッ」大阪城が見えた。米粒大に。福田へ出て、泉光寺と予定したタイムスケジュール通り。泉光寺で記念撮影とトイレ休憩の後、東岸和田駅前へ回り道をして、福祉センター前で全行程を終る。

参加者 井齊、石橋、河野、河辺、小西、軒、宮内(富)、堀田、黒木、宇治、高畑、宮内(藤)、村上、大北、阪森、田良原、内田、金田、福本、安浪、北沢、

コース略図



(金田記)

第177回 例会 昭和63年2月14日(日)

天候・気温 晴 7℃ 担当リーダー B

- ◎ 行先 久米田寺ー緑と太陽の丘 9km
- ◎ 参加人員 29名
- ◎ コース 福祉センターー貝吹山ー久米田寺ー岡山御坊跡ー緑と太陽の丘ー
福田¹²岸和田

○行程記録

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 8:25 福祉センター発 | 10:15 岡山御坊跡着 5分間休憩 |
| 8:55 貝吹山着 5分間休憩 | 11:10 緑と太陽の丘着 |
| 9:25 久米田寺着 20分間休憩 | 11:20 解散 |

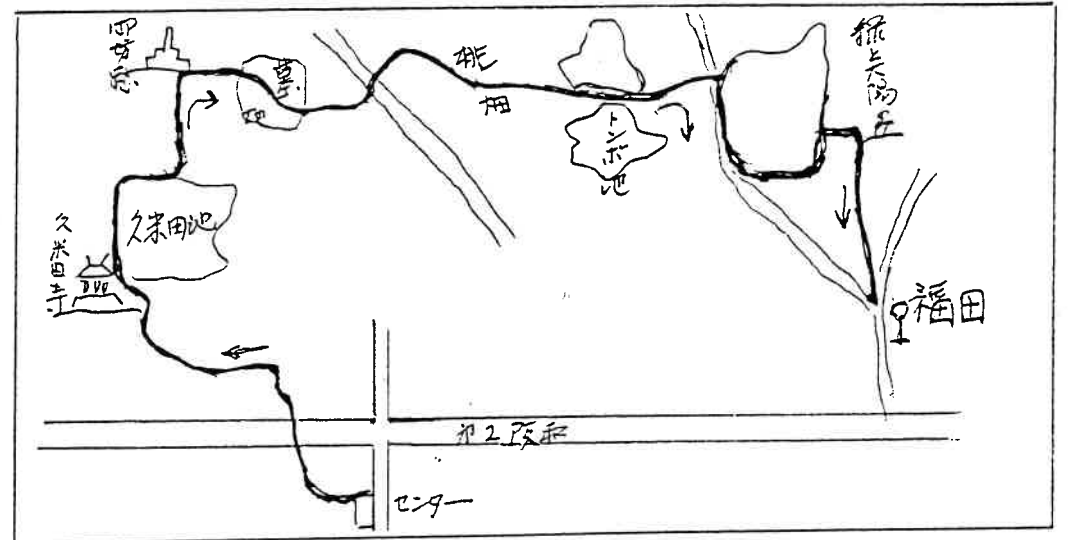
記事

好天ながら底冷えのするさすが寒の内を思わせる1日。

定時福祉センター発。歩きなれたこの道、足も軽く久米田寺着、ここで全員集合。久米田ジョギングコースも寒さのせいあまり人影も見当らない。御坊跡で休憩もそこそこにして、墓地内を歩いて太陽の丘へ。あまり話題もないままここで解散。

- 参加者 井斎、河野、河辺、小西、軒、宮内(富)、石橋、川崎、宇治、川口、高畑、宮内(藤)、加地(求)、阪森、田良原、井上(晴)、加地(行)、金田、安浪、奥(源)、森(富)、古林、中野、山本、植田、黒木、外3名

コース略図



(阪森記)

第178回例会 昭和63年2月28日(日)

天候・気温 晴 13℃ 担当リーダー C

◎行先 金熊寺(観梅) 11km

◎参加人員 28名

◎コース 東岸和田駅=山中溪一境谷一槌子峠一楠畑一金熊寺一梅園

○行程記録

8:41 東岸和田駅	10:40 槌子峠
9:10 山中溪駅	10:50 " 出発
9:30 " 出発	12:20 金熊寺
10:20 境谷	12:35 梅園

記事

夜来の雨もあがり、昨年このコースで大雨にあったのに比べ申し分のない快晴にめぐまれた。それでも境谷への山道へかかるとさすがにヒンヤリとした冷気が残っており、ほぼ満開の梅を谷間に眺めながら境谷に到着。

今まで何回か来たコースであるが、今日のように快晴の下で歩くと一段と快適さが増す。境谷で小休止。ぼつぼつ汗ばんで来たので上衣を一枚脱いで槌子峠への登りに備える。

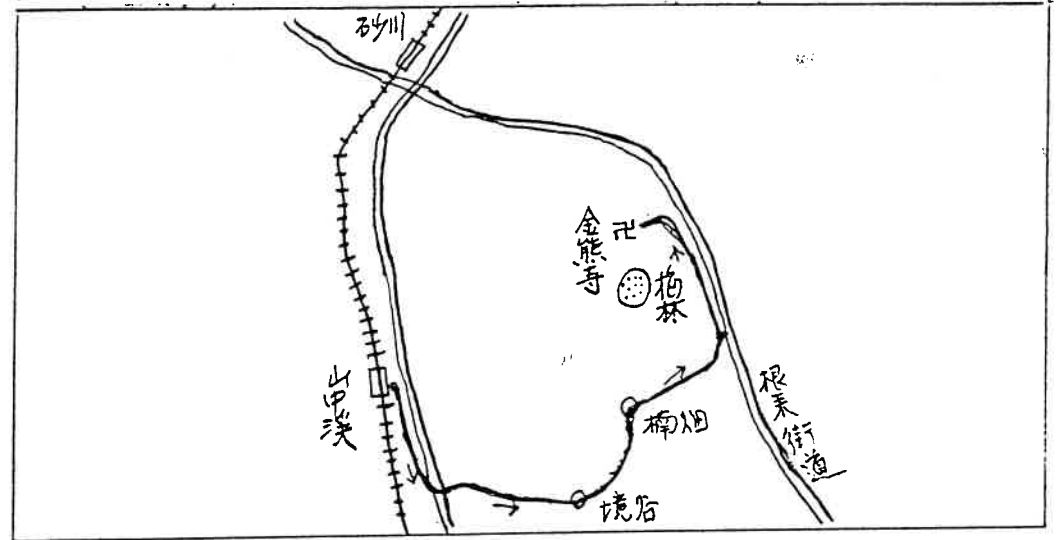
峠道は昨夜の雨によるぬかるみも無く、一同元気で一気に峠の上に立つ。昨年はこのあたりから雨になりドシャ降りの中を金熊寺まで歩いた事を思い出しながら、今日の晴天に感謝する。

予定時刻に金熊寺に到着。参詣後一同打ちそろって梅林へ。梅は7~8分咲で丁度見頃で、大勢の遊山客に交り心行くまで梅の色香を楽しむ。

参加者

石橋、朝比奈、井斎、小西、軒、平見、薮、川崎、高畑、
宮内(藤)、大北、阪森、田良原、中村、金田、福本、安浪、
森(富)、中野、森(一)、清水、山本、芥川、外5名

コース略図



(宮内記)

第179回 例会 昭和63年3月13日(日)

天候・気温 晴 18℃ 担当リーダー A

- ◎ 行先 お菊山 12km
- ◎ 参加人員 20名
- ◎ コース 東岸和田駅=長滝-意賀美神社-滝の池-殿尾山-お菊山-
蛙の谷地藏-新家駅

○行程記録

8:41 東岸和田駅	11:15 殿尾山 10分休憩
9:00 長滝駅	12:05 お菊山 昼食1時間休憩
9:30 意賀美神社 10分休憩	14:00 蛙の谷地藏 20分休憩
10:15 滝の池 10分休憩	15:00 新家駅 解散

記事

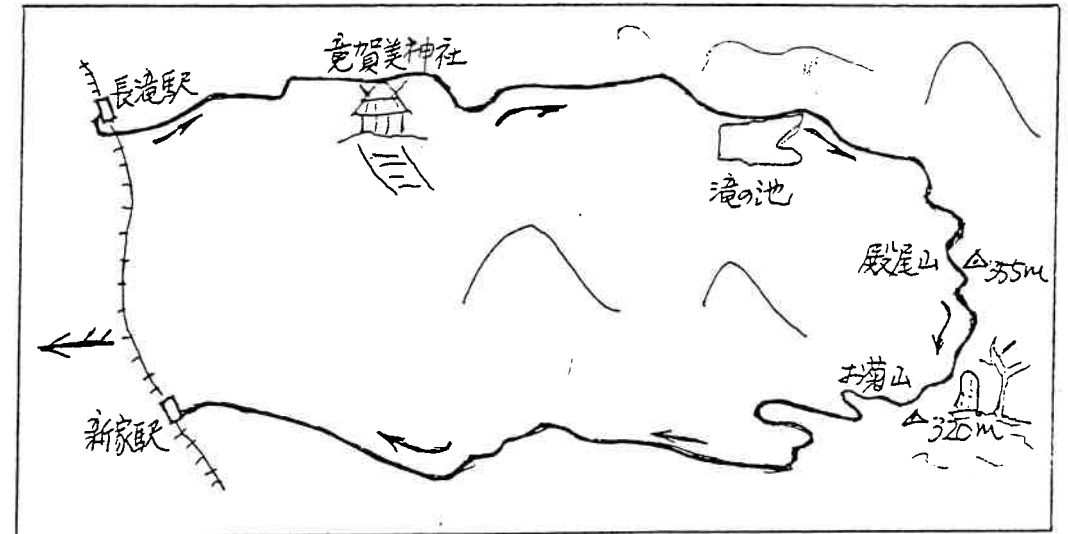
奈良のお水取りもすんで今日はことの外暖いよい例会日和となった。意賀美神社までは足馴らし程度であるが、ここでもう着たもの一枚を脱ぐほどになった。滝の池への道は登りがつづき隊列が乱れがちである。

小憩ののちいよいよ殿尾山への登り口から急坂になる。それからの尾根伝も登りできつい馬の背も無事越えて、長い登り下りの末、お菊山へ。たっぷり昼食の時間をとって、元気をつけてから尾根をつたい蛙の谷地藏への道に下る。道路工事中の道はぬかるんで靴についた泥が重たい。

このコースは私が一回生で歩こう会に入って二度目の例会に歩いたところで、殿尾山登り口の急坂をよちたのが昨日のことに思い出される。今日の皆さんいかがでしたか。山登りのだいで味をほんのちょっぴり体験し壮快感に浸ってられる姿を私は想像しているのですが。

参加者 石橋、井斉、河野、河辺、小西、軒、平見、川崎、宮内(藤)、
阪森、田良原、中村、金田、福本、安浪、中野、森(一)、清水、
外2名

コース略図



(金田記)

第180回 例会 昭和63年3月27日(日)

天候・気温 晴 9℃ 担当リーダー B

- ◎ 行先 竹内街道・二上山 12km
- ◎ 参加人員 20名
- ◎ コース 岸和田=新今宮=天王寺=近鉄阿倍野橋=当麻寺駅=当麻寺=竹内峠=二上山=叡福寺=上太子

○行程記録

7:44 岸和田駅	11:05 二上山登り口 休憩
8:37 阿倍野橋駅	12:00 雌岳 昼食1時間休憩
9:20 当麻寺駅	13:30 下り中腹 10分休憩
9:55 当麻寺出発	14:35 叡福寺 10分休憩
10:30 竹内峠 小休	15:12 上太子駅 解散

記事

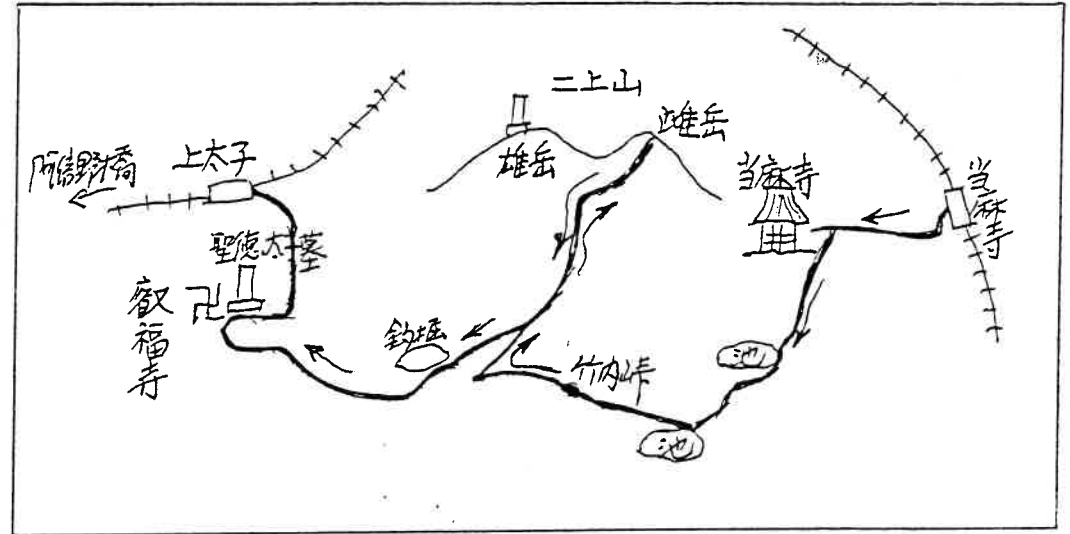
前日の雨もあがり、登山日和。昨年はボタンの花が咲いていましたが、今回はさらに当麻寺より、竹内峠から二上山に登るのが目的で、たびたびの休憩をし全員元気に登頂(雌岳)。やはり頂上は寒く、食事後ゴミを焼いて暖をとりました。

予定通りの出発で、カセットを鳴らしながら下山しました。細い岩道を汗しながら楽しく急坂を下って、叡福寺に参拝し、健脚向きでしたがそんなそぶりもなく、予定以上に早く元気で上太子駅に着き無事解散しました。リーダーを軒君と組んで第1回目でした。

参加者

井齊、小西、軒、薮、石橋、川崎(見)、川口、高畑、宮内(藤)、阪森、田良原、中村、金田、松村、安浪、森(富)、森(一)、外3名

コース略図



(井齊記)

第181回例会 昭和63年4月10日(日)

天候・気温 晴 16℃ 担当リーダー C

- ◎ 行先 包近の桃 9km
- ◎ 参加人員 22名
- ◎ コース 福祉センター→久米田寺→岡山御坊跡→包近桃畑→緑と太陽の丘→福田バス停

○行程記録

- 8:30 福祉センター出発
- 9:25 久米田寺着 15分休憩
- 10:20 岡山御坊跡着 10分休憩
- 10:50 包近桃畑 10分休憩
- 11:30 緑と太陽の丘着 解散昼食

記事

春には珍しい程の寒さつづきで、折角の久米田寺の桜、包近の桃も蕾のままになるのでは……と心配されたが、昨日あたりから風はまだ冷いながら漸く気温も日中の最高温度15℃位まで上昇するようになり、久米田寺の桜も五分咲でピンクの花が実に美しい。

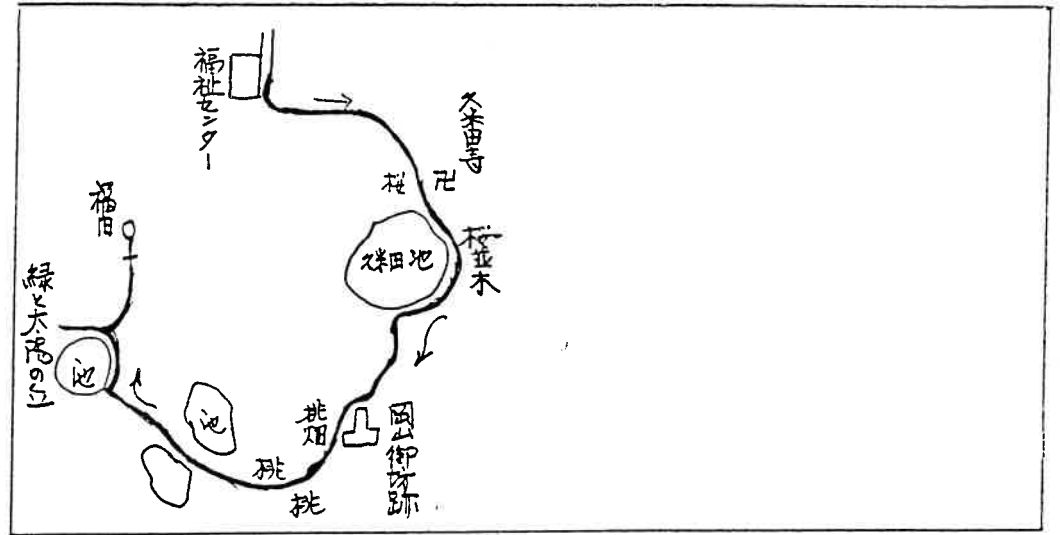
包近の桃も畑毎に殆んど満開に近いところもあれば、殆んど蕾のままのところもあり、あと1週間もすればこの辺りは一面桃の花に埋まるものと思われる。

満開の桃畑で休憩。心ゆくまで美しい桃の花を觀賞する。畑では丁度おくれればの剪定をされており、切り取った枝をもらい一同に分配する。思いがけぬ土産が出来て参加者は大喜び。土筆も顔を出しており楽しい一日であった。

参加者

石橋、朝比奈、井齊、小西、平見、宮内(富)、深見、高畑、宮内(藤)、村上、加地(求)、十和、田良原、中村、加地(行)、金田、安浪、下章、森(富)、中野、山本、外1名

コース略図



(宮内記)

第182回 例会 昭和63年4月24日(日)

天候・気温 晴 16°C 担当リーダー A

- ◎ 行先 神於山 11km
- ◎ 参加人員 15名
- ◎ コース 福祉センター→泉光寺→福田→国見台→城見台→神於寺→船渡バス停

○行程記録

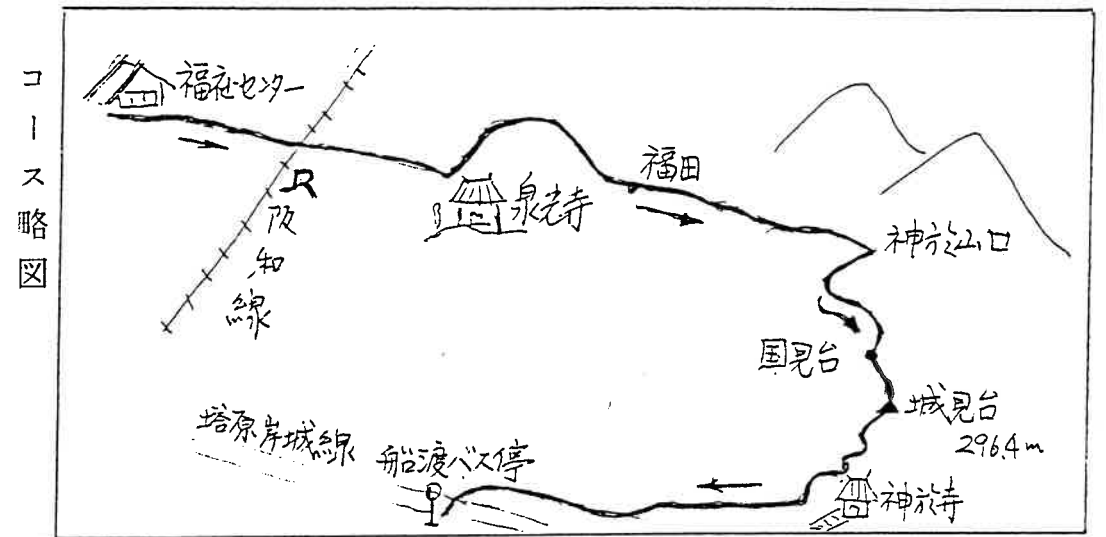
8:30 福祉センター	10:55 国見台 昼食休憩1時間半
9:15 泉光寺 15分休憩	13:00 神於寺
10:15 とめづか橋 15分休憩	13:30 船渡バス停 解散

記事

毎年、新1回生が参加出来る最初の例会ということで、最も平均的なコースとして、神於山を4月の第4日曜に撰択しているが、この近年はなかなか思うように参加してもらえない。理由は何なのかと考え迷う。クラブ入会の決断が4月末では早すぎるのか、学生気質が変ってしまったのか。歩き馴れた人々には、同じ時期に同じコースは興味の薄い例会というイメージが濃くなっていることと反省しきり。

5日前に下見に来た時は神於寺への下山道の桜が大変にきれいで、これが去年と同様今日のハイライトであると思っていたのに、好天が続いた故か殆んど散り果ててしまい残念。しかしながら陽光のもとで適当にわらびを探したり、山の空気を存分に吸い、和やかな楽しい1日であった。

参加者 石橋、河野、小西、平見、川崎(見)、谷、宇治、十和、井上(晴)、金田、福本、安浪、森(富)、外2名



(金田 記)

第183回 例会 昭和63年5月1日(日)

天候・気温 晴 25℃ 担当リーダー B

- ◎ 行 先 つつじ見物 堺 8 km
- ◎ 参加人員 44名
- ◎ コー ス 東岸和田駅=浅香駅-浅香山浄水場-我孫子観音-長居公園-
長居駅=東岸和田

○行程記録

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 9:20 東岸和田駅 | 12:15 長居公園植物園 昼食休憩 |
| 9:57 浅香駅 | 15:00 " 植物園 集合 |
| 10:05 浄水場つつじ見物
25分休憩 | 15:20 長居駅 解散 |
| 11:40 我孫子観音 10分休憩 | |

記 事

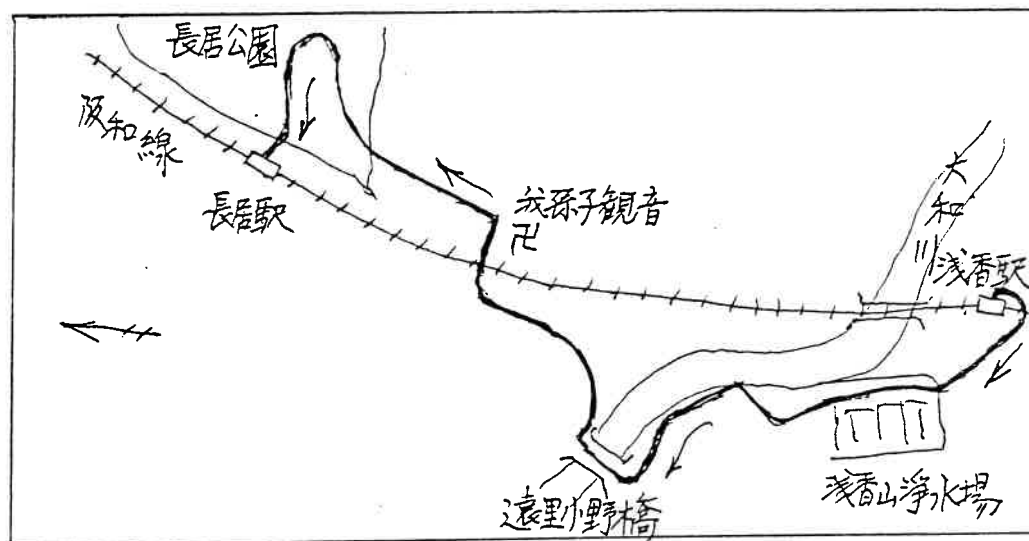
本日は朝はさわやかでしたが、午後は夏日のようになり、天気もよし、花も良しで大勢の人が参加、まことに結構な例会でした。

浅香山のつつじ2、3日早いかな? でもお見事、でっかいつつじでした。街の中の歩こう会でしたが、車が少なかったせいか、ほこりもトラブルも無く、予定外に我孫子観音も参拝出来、お昼の食事もありおそくならず植物園に入園。食事をすまして3時までの自由行動で、緑とボタンの咲く中を新会員一回生も混り、楽しい一日でした。

参加者

朝比奈、井齊、河野、石橋、小西、軒、平見、菟、宮内(富)、川崎(見)、植田、谷、深見、井上(英)、宇治、高畑、宮内(藤)、村上、植山、加地(求)、阪森、十和、田良原、中村、加地(行)、金田、福本、松村、安浪、下章、森(富)、大居、中野、清水、山本、外9名

コース略図



(井齊記)

第184回例会 昭和63年5月22日(日) 23日(月)

天候・気温 曇のち雨、晴 23℃

担当リーダー 実行委

- ◎ 行先 10周年記念一泊 有馬温泉 6km
- ◎ 参加人員 36名
- ◎ コース 福祉センター北門前＝中山寺＝蓬莱峡＝有馬温泉円山荘(泊)＝六甲山頂＝菊正宗資料館＝ポートアイランド＝湊川神社＝福祉センター

○行程記録

22日 10:00 福祉センター発	9:25 六甲山頂 35分休憩
11:20 中山寺 昼食参拝2時間	10:45 菊正宗資料館 20分見学
13:40 蓬莱峡	11:30 ポートアイランド昼食休憩1時間
14:00 有馬温泉 円山荘泊	12:40 湊川神社 30分休憩
23日 9:00 円山荘発	14:50 福祉センター着 解散

記事

歩こう会結成10周年記念一泊例会は期待はずれの曇り空。2名欠席で総勢36名、迎えのバスで定刻10:00発車、一路中山寺へ。

阪神高速に乗った頃から雨となった。予定より少し早目に中山寺に到着、魚安で用意された定食にまず箸をつける。メニューには¥1,600とあったので美味という感じがあったらしいが、実は1,000円。食後雨の参拝。

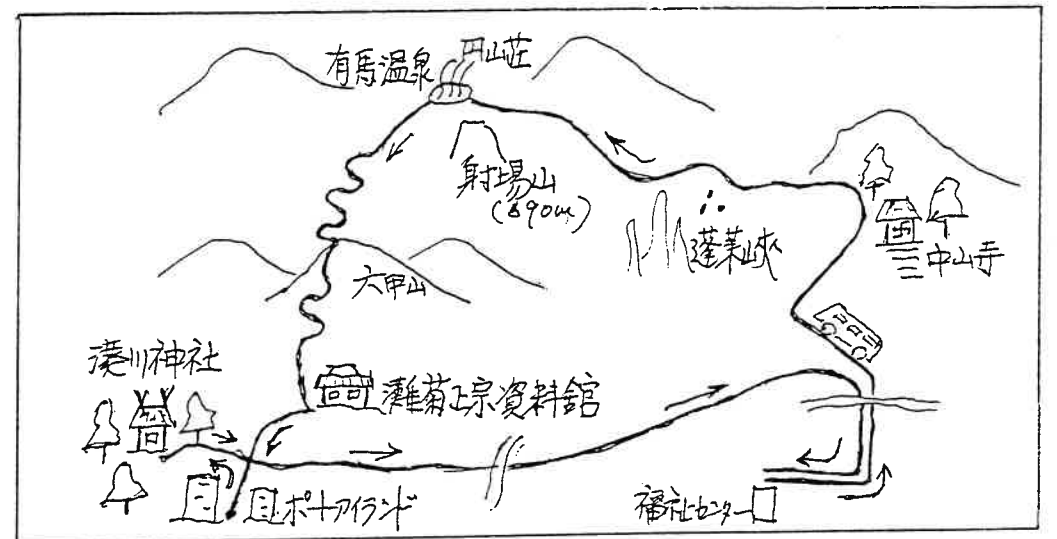
再び車中の人となり、雨の蓬莱峡を見物。このあたりで本日の射場山登りは取止めとする。旅館到着が早かったので、ゆっくり入浴したり、千秋楽のテレビに興じる。懇親会は18:00少し前から始まった。飲めば唄い、踊りで大変にぎやかで楽しい。おひらきの後は部屋で二次会とお定りのコース。

翌23日は、寝不足やら宿酔らしい顔がそろって9:00出発。六甲山はつつじとおそ咲きの八重桜が私達を迎えてくれたが頂上は寒かった。菊正宗のから口甘口を賞味して、ポートアイランド、アコヤ亭で昼食。ここの料理はおそまつという感じ。湊川神社で楠若葉花を満喫した後、一路なつかしの福祉センターへ。

終ってみて、一泊例会を行って良かったという実感は、六甲山のつつじと湊川神社の楠若葉と花の甘ずっぱい香りと共に今でも胸に残る。

- 参加者 朝比奈、井斎、河野、小西、平見、今西、植田、黒木、深見、井上(ふ)、宇治、高畑、宮内(藤)、村上、十和、田良原、井上(晴)、内田、金田、崎田、安浪、森(一)、下章、森(富)、清水、中野、山本、外9名

コース略図



(金田記)

第185回 例会 昭和63年6月28日(日)

天候・気温 曇 28℃ 担当リーダー C

- ◎ 行 先 延命寺・観心寺・河合寺 8km
- ◎ 参加人員 26名
- ◎ コー ス 岸和田駅=ナンバ=千早口-延命寺-観心寺-河合寺-河内長野駅 解散

○行程記録

8:04 岸和田発	12:20 延命寺出発
8:40 ナンバ発	13:00 観心寺着
9:10 千早口着	13:20 " 出発
9:25 " 出発	14:10 河合寺着
11:15 延命寺着	14:30 " 出発
11:15 昼食休憩65分	14:50 河内長野駅着 解散

記 事

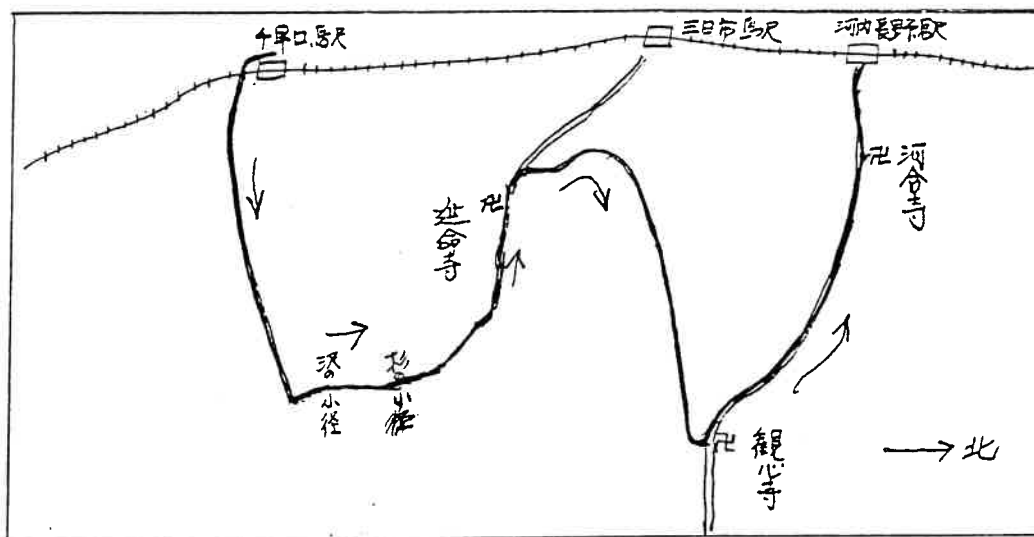
曇天にもかかわらず参加者26名。梅雨の最中としてはまずまずの盛会であった。新入会者8名の紹介ののち出発。清流の沢添いの小径を岩伝いに歩く。前日の大雨ですべり易いので足許に注意しながら涉水終えて、杉の小径をフックリしたペースで峠へ向けて登る。杉林にかかると急に湿度が上がり、一度に汗が吹き出して来る。それでも一同久しぶりに踏みしめる土の感触を楽しみながら延命寺に到着。

青・ピンク等の冴えた色彩のあじさいを觀賞しながら昼食。観心寺では国宝の金堂や重文の建掛塔を拝観。楠公首塚に詣でて南北朝の昔におもいを馳せる。

観心寺からは車の群に悩まされながら河合寺門前に到着。延々つづく石段を見上げて石段組と女坂組に別れてあがる。苦勞して上った甲斐あって河内長野市が眼下に一望出来る絶景である。今日は一日中、いつ雨が降っても不思議でない雲行きであったが、一滴の雨にも会わず、幸運な例会であった。

参加者 宮内(史)、世利、鈴木、寺田、赤垣、石橋、小野、小西、田中、軒、宮内(富)、植田、荒川、宇治、川口、高畑、宮内(藤)、加地(求)、阪森、田良原、加地(行)、金田、福本、松村、安浪、山本、

コース略図



(宮内記)

第186回 例会 昭和63年7月10日(日)

天候・気温 晴 31℃ 担当リーダー B

◎ 行 先 和泉葛城山 11km

◎ 参加人員 22名

◎ コー ス 岸和田駅前=牛滝山-カシ平-三叉路-旧道-山頂-塔原=
岸和田駅前

○行程記録

8:45 岸和田駅バス乗車		13:20 葛城山頂出発
10:05 牛滝山カシ平三叉路	10分 休憩	14:55 塔原バス停 解散
12:10 葛城山頂 昼食		

記 事

今年は梅雨も早目に上って晴天の日が続き、昼前には30℃以上の猛暑になったか？ 旧道の坂道も休み休みの前進。初めての人もおり、悪戦苦闘のようでもあったが、みな元気で頂上を目的の時間までに登頂しました。

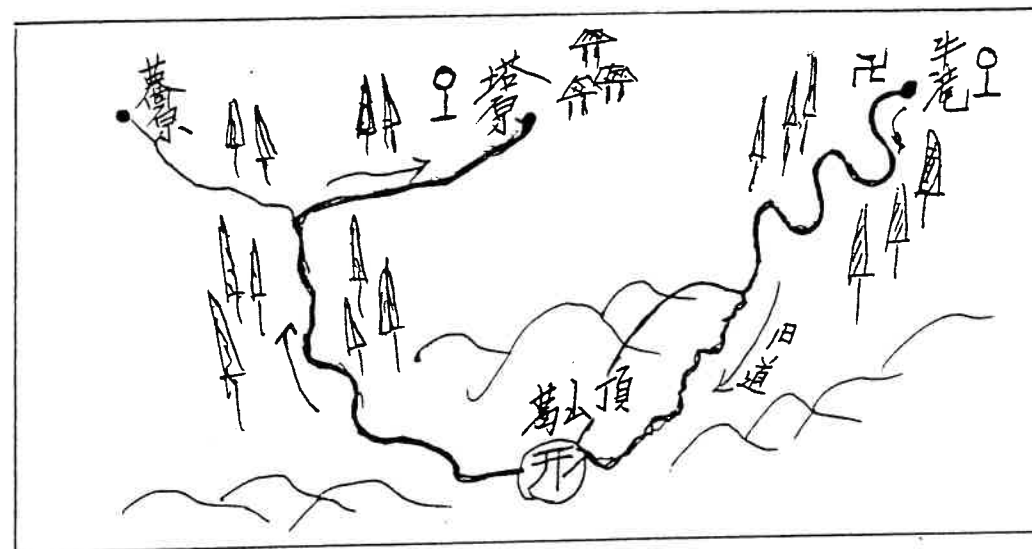
帰りは、道もよいはずだが石ころが多くて、滑べりこける人もあって、キャキキャわいわい、にぎやかに言っている内に塔原バス停に着きました。

汗一ばいの中にも、楽しい一日で、無事に下山しました事を感謝します。

参加者

嘉祥寺、世利、赤垣、朝比奈、井斎、小野、小西、田中(カ)、
軒、平見、宮内(富)、増田、宮内(藤)、大北、阪森、十和、
田良原、中村(富)、金田、安浪、清水、山本、

コース
略
図



(井 斎 記)

例会外 昭和63年8月7日(日)

天候・気温 晴 35℃ 担当リーダー C

- ◎ 行先 赤目四十八滝-青蓮寺川 8km
- ◎ 参加人員 20名
- ◎ コース 岸和田駅=ナンバ=上六=赤目口駅=赤目滝口=出合=落合=名張

○行程記録

7:23 岸和田駅発	11:35 百畳で昼食休憩
8:10 近鉄ナンバ駅	12:20 " 出発
8:40 " 上六駅発	13:40 出合 10分休憩
9:43 " 赤目口駅着	15:00 落合着
9:50 " " バス	15:29 " バス乗車
10:00 赤目滝口着	16:00 名張駅 解散

記事

10周年記念一泊歩こう会で有馬について希望者が多かったので、夏期例会外を赤目四十八滝にしたところ、酷暑の時期にもかかわらず20名の参加者があり盛況であった。

赤目滝口で人員点呼。初参加の小林さん、野木さんを紹介。滝へ通じる道筋へ入ると、先日来の大雨の影響で清冽な豊富な水が勢いよく流れており、下界の酷暑が嘘のようなヒンヤリとした空気の感触が心地よく感じられた。

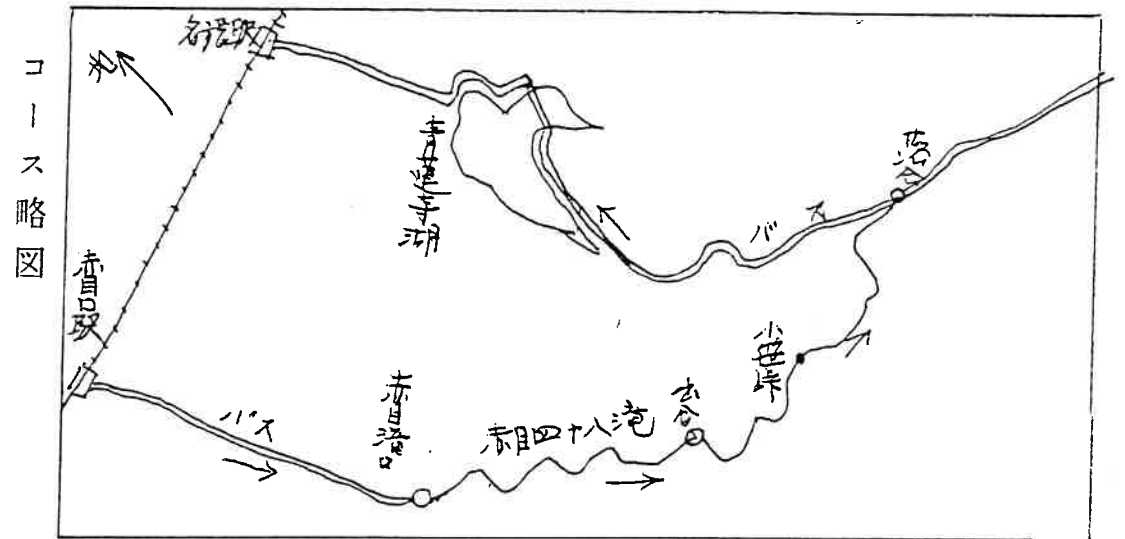
観光地特有の空缶やビニールのポイ捨ては全くなく清潔に管理されており、入山料の200円も決して高いものではないと思った。

大小様々な滝がつぎつぎ現われ目を楽しませてくれたが、中でも布曳の滝と荷担滝は名勝赤目四十八滝を代表する名瀑と思われた。

滝の道が終ると10分程で出合に到着する。出合では100人近い団体ハイカーが休憩していたが、これを追い越して落合への林道に入る。今までの川添とは対照的に、杉林の中の小径で森林浴の味を満喫しながら落合に到着。落合からはバスで清蓮寺川添いに連なる柱状岩壁や美しい清蓮寺湖を眺めながら名張に到着。解

散。素晴らしい一日であった。

参加者 石垣、嘉祥寺、小林、鈴木、世利、寺田、野木、宮内(史)、朝比奈、井斎、石橋、河野、田中、軒、平見、宮内(富)、宮内(藤)、阪森、金田、外1名



(宮内記)

歩こう会10年の足跡

(資料は「自然の中へ」第1集～第8集他より)

53年 第1回例会～第7回例会

実施例会数 7回
歩行延べkm 59 km
延べ参加者 149名

54年 第8回例会～第27回例会

実施例会数 20回
歩行延べkm 180 km
延べ参加者 457名

- 月2回実施となる
- (A)弁当持参。(B)3時間程度の距離
- 一航参加を認める
- 1ヶ月200円の会費徴収
- 5月「自然の中へ」第1集発行

55年 第28回例会～第45回例会

実施例会数 18回
歩行延べkm 185.5 km
延べ参加者 419名

- 6月「自然の中へ」第2集発行

56年 第46回例会～第64回例会

実施例会数 19回
歩行延べkm 199 km
延べ参加者 489名

- 50回記念 3/8金熊寺
記念手拭配布
- 7月「自然の中へ」第3集発行

57年 第65回例会～第83回例会

実施例会数 19回
歩行延べkm 198 km
延べ参加者 593名

- 5月 久米田寺憩の家で総会を開く
- 7月「自然の中へ」第4集発行
- 4月 健歩証新設

58年 第84回例会～第101回例会

実施例会数 18回
歩行延べkm 184 km
延べ参加者 558名

- 100回記念 12/11松尾寺
記念手拭配布
- 12月「自然の中へ」第5集発行
- 会員数 58名

59年 第102回例会～第116回例会

実施例会数 15回
歩行延べkm 162 km
延べ参加者 481名

- 東海自然歩道シリーズ開始
- 例会リーダー制を採用する
- 会員数 60名

60年 第117回例会～第136回例会

実施例会数 20回
歩行延べkm 201 km
延べ参加者 546名

- 3月「自然の中へ」第6集発行
- 会員数 64名

61年 第137回例会～第154回例会

実施例会数 18回
歩行延べkm 180 km
延べ参加者 393名

- 4月「自然の中へ」第7集発行
- 150回記念手拭配布
- 会の運営責任体制見直し
主務世話人制採用(輪番)
- 会員数 51名

62年 第155回例会～第174回例会

実施例会数 20回
歩行延べkm 197 km
延べ参加者 473名

- 会の運営責任者として代表世話人制採用
- 7月「自然の中へ」第8集発行
- 会員数 62名

63年 第174回例会～第184回(5月末迄)

実施例会数 10回
歩行延べkm 99 km
延べ参加者 264名

- 4月 歩こう会専用収納場を会館内に設置
- 5月 結成10周年記念一泊例会を行う
- 会員数 74名

10年のプロフィール

10年間のそれぞれの年に思い出がある！
その年を代表すると思われる写真を取揃え
ました。とっぷりと思い出に耽って下さい。

(写真提供 山本光男氏)

53年9月9日 第2回例会 久米田寺



54年 5月27日 第16回例会 緑と太陽の丘 パラ園



55年 2月24日 第30回例会 お 菊 山



56年 5月10日 第54回例会 飯 盛 山



57年 4月25日 第72回例会 大 川 峠



58年11月27日 第99回例会 九度山慈尊院



59年3月25日 第105回例会 当麻寺～二上山～叡福寺



60年5月26日 第126回例会 友ガ島・虎島へ



61年2月23日 第140回例会 貝塚山荘より河合へ



62年11月8日 第171回例会 深 日 港



63年5月1日 第183回例会 浅香山浄水場のつつじ



健 歩 証 (会員資格は63年6月現在)

昭和63年3月23日(第179回例会)の時点における保持者

km	氏 名	初参加例会	達成例会
1,400	諸 節 光 吉	第 1 回	第141回
1,200	山 本 光 男	第 1 回	第178回
1,100	中 野 伊 之 助	第 3 7 回	第179回
900	金 田 定 之	第 8 9 回	第179回
800	信 田 育 久 子 清 水 信 代	第 2 1 回 第 1 9 回	第144回 第169回
700	安 浪 佐 和 子 阪 森 一 郎	第 8 9 回 第109回	第177回 第179回
600	内 田 達 次 古 林 藤 一 郎	第 9 0 回 第 5 5 回	第176回 第177回
500	米 沢 安 一 郎 矢 野 千 力 工	第 3 7 回 第 5 5 回	第141回 第156回
300	中 西 信 雄 加 地 行 雄 加 地 求 田 良 原 信 定 宮 内 藤 兵 衛 十 和 福 男 森 富 香	第 9 0 回 第107回 第108回 第126回 第128回 第108回 第118回	第126回 第146回 第158回 第160回 第160回 第174 第177回

元会員交付者 (会員資格は63年6月現在)

km	氏 名	初参加例会	達成例会
1,100	北 沢 玄 次 郎	第 1 回	第142回
900	奥 芳 太 郎 長 束 正 安 太 地 稔	第 1 回 第 1 回 第 1 回	第117回 第140回 第140回
800	尾 崎 秀 男 水 谷 一 男	第 1 回 第 3 6 回	第109回 第156回
700	山 本 松 子 坂 根 善 七 木 下 二 三 郎	第 1 回 第 1 回 第 2 4 回	第 8 8 回 第100回 第116回
600	鈴 木 喜 七 山 本 覚	第 1 回 第 3 4 回	第 7 9 回 第119回
500	乃 村 新 之 丞 吉 田 環 小 国 美 千 代 八 野 綾 子 奥 源 次 郎 北 口 た き	第 1 回 第 1 回 第 5 5 回 第 7 5 回 第 7 6 回 第 8 9 回	第102回 第108回 第117回 第132回 第158回 第159回
300	12名 氏名省略		

《文集》

自然と釣り

井 齊 實

私の釣は、自然を眺め、川の流れと逆に坂を登りながら、拾い釣りが大好きだった二十年前の話です。

私の仕事は、株券を証券代行に送るまでの検査と、管理から保管までの責任者でした。その間に色々なトラブルが私の神経を衰弱させる毎日でした。これを直す特効薬として毎週休みごと釣をする事を始めました。

関西地方を中心にした秘境と溪谷をたずね、清流や滝壺をもとめ、そして豪快にして激しく岩を噛む千差万別の流れが、俗世界のすべてを忘れさせてくれました。

歩け歩くのハイキングも兼ねながら、一人で竿をのぼしたままで肩に掛けて歩く。ポイントを見つけるとその場で釣を開始する。竿を振る、ウキが流れる、一点を見つめる。喰いを待つまでの空間こそ、今の世を忘れた誰でもない無人者になる感じ。何分かいや何秒か、やがて竿を振る手に魚信が竿の先から伝わる。その信号が高鳴りに変わる。その高鳴りが心の中で新しい血液になって、全神経の隅々まで至る頃、緊張が少しづつほぐれ、さらに一週間のもやもやも心の底にあった汚れまで川に流れて、消えて行くみたいになるのです。

この自然の恵みに感謝して次のポイントに向かう。谷を越え橋を渡り、知らない土地をまた歩く。何回も何回も繰り返している内に、明日への活力が満ちあふれるのです。

のまずに効く薬でしょうか、不思議な効果があり、これが最大の目的であり、この現象をもとめて毎週出かけました。釣果などどうでも良かったのです。

そのために家の事は何もしない男でしたが、そのお陰でしょうか、今は人よりも十年も元気で長生きしそうな気がしている今日この頃です。

アルプスの乙女、ユングフラウの旅

井上英代

マロニエの花びらが風に舞い、小さな一片が、そっと髪にとまる。いよいよ今日は、旅のハイライト、スイスのユングフラウへ……、

昨年5月4日のことである。

ユングフラウは、アルプスの中央部、スイスのベルン州と、ヴァレー州との境にそびえる名山で、アルプスの乙女といわれる。標高4165mで、アイガー、メンヒ、ユングフラウと、三山が相接して並び、きらめく永遠の雪源である。南西側の、世界最大のアレッチ氷河まで、実に20kmに及んでいる。インタラーケン、オスト駅より登山電車で登ることが出来る。鉄道は、共同経営とかで、近代化され、最新の車輛と、高性能の輸送システムに開発され、電化された鉄道網は、70km以上の長さを持つといわれる。

時差ぼけもまだすっきりせず、体は昨日のドナウ河の船にゆられたままのようだ。眠れないまま、早朝より防寒着に身を整え、登山電車に乗る。睡魔は、しきりと襲ってくる。電車ですとろとろしているうち、隧道(トンネル)を出ると、大きな車窓いっぱいアルプスの大展望である。朝のやわらかな光に照らされた美しい幻想の世界である。この大景観を、わずか三時間程の登りで与えられたことを感謝する。

途中、下車し(駅の名前を忘れる)、氷の隧道内を観る。緊張/寒い/滑る/手すりに縋りながら、ゆっくり進む。(勿論、頭上、側壁、脚下全部氷)氷をくりぬき、札幌の雪まつりのように、有名人の像、宮殿、ワーゲン車、等しつらえてあり、楽しませてくれる。同時にこの低温内での作業の苦労が身にしみる。再び登山電車で目的地に着く。延々と連なる重厚な山容、真白の世界、ただただ大感激、山々に向かって大歓声をあげたくなる。しかし、胸が迫って声も出ない。

山の遠望を楽しむうち、俄かに猛吹雪となり、1m先も、近くのはずの友の姿も判然としない。間もなく天候が安定し、素晴らしい景色に再び心躍らせる。この時ばかりは、頭の後ろにも目がほしいと思う。スイスの国旗が、へんぼんと翻っている。銀世界に朱の色が印象的だ。脚元の積雪は、ほぼ2mだとのこと。登山電車は一周を終え、麓に到着する。見上げると、高所は真白、中腹は苦葉の萌える緑、麓はパンジー等、花盛りで黄色の絨毯を敷いたよう。三段階のカラーの鮮明さは実に綺麗だ。ぜひカメラにと、現地の方と一緒にシャッターをきっていただく。

今年は、アイガー北壁初登攀五十周年記念年とききました。これまで、300人もの犠牲者があったそうです。高性能の輸送システムの開発で、私達も聖なる山々に近づけた幸せを感じます。また、自然現象による山の変貌と、きびしさを痛感しました。そして、外人観光客の、お互いが笑みで挨拶を交わし、山への自然保護への姿勢を垣間見る思いでした。

いつだって青春!

今西幸子

盆踊りの太鼓の音が響く頃になると、夏もすでに終りに近づいた感がある。

盛夏8月の1日2日と、第1回大学院生親睦の旅にお誘いを受け、平家落人の伝説と民謡で名高い「むぎや節」「こきりこ唄」のいにしえを偲ぶ、越中・飛騨の旅に参加させて頂いた。

目指す飛騨白川郷は、越中五箇山と対峙する合掌造りのふるさとで、耕地が狭く貧しいために大家族制がとられて生まれたもので、その哀れな歴史を知るにつけ、人々の旅情を一層かきたてる。

旅装をといた庄川温泉では、その夜、早速、待望の民族衣装を身にまとった郷

土民謡保存会の面々が、雅楽のような音楽を鳴らし、ササラという竹で作った、ジャバラのような楽器を打ちならして「浪の屋島を遠く逃れ来て薪樵（まきこ）こるちょう深山辺に」と、飛んだりねたりしては哀調のしらべ「麦屋節」をくり返しくり返し披露して下さった。続いて小竹を器用に手先で打ならして「こきりこの竹は七寸五分じゃ、長い袖のカナカイジャ」窓のサンサもデデレコデン、はれのサンサもデデレコデンと「筑子唄」（こきりこ）を賑やかに踊って、都会では決して味わえない「ホッ」とした温い旅の気分を、満喫させて下さった。

宴の続きは歌あり踊りありでいつ果てるとも知らず、11時頃にやっとそのしめくくり、こぼれ落ちそうな星空を見て、ではなく、勇気ある面々が混浴の露天風呂に浸って、和気藹々の笑いの中に旅の疲れをいやした。

次の朝、真っ青に澄んだ空をあとにして、庄川沿いに合掌集落へと急いだ。わずかに水田の開けた平地に十七戸ほどの合掌集落があり、改造されていない昔の姿のままに修復されて、均整のとれたひっそりとした美しさを保ち、見る者に山里の生活がじかに感じられる。

村上家は五箇山の中でも、最も基本的な形を残している江戸中期の合掌造りで、間口は約11m、奥行き20m、高さも11m位いの4階建てで、2、3階は板張りの、妻に切られた明り障子からの柔らかな光りの中に、煙硝作りや和紙漉き、養蚕の道具、農具などが並べられて、階下には昨夜見たササラの楽器の大小や、コキリコの竹細工など、色とりどりに並べられて売られていた。

白川郷合掌村、萩町合掌集落をあとにして、6月より大型バス乗入れ可能となった、4kmにわたる樹海スーパー林道をひた走って、やっと百万石城下町加賀市に着くや、遅い中食を済ませたあとは、カラオケ等も賑やかに楽しんで一路帰路に着いたのであった。

思えば私がこの旅行に参加させて頂いたのは、お互い人生の後半を迎えた者同志の懐しさや、殊に5年も10年も一生懸命勉学の志を抱いて、この健老大学に通

って来られる諸先輩の後姿に、常日頃感激と尊敬の念を抱いているに外ならないので、私も命ある限り自分の足で歩いて勉学にいそしみ、また歩こう会にも体力の許す限り、1回でも多く参加して、諸先輩の足型を踏むつもりでいるからです。そこに山がある限りゆっくりあせらず、一步一步ふみしめて頂上まで登って行くつもりです。皆で励まし合って頂上を極めた時「へエー、こんな所まで登って来られたのか！」という感動を味わいたい。その一刻の満足感さえあれば、きっと、生きているという実感と感動が味わえると、私は確信しています。

いつだって青春なんだ！。自然はそのために私達の前にあり、そこに山があり自分が努力さえすれば山は助けてくれる！ さあ！ 連れだってこれからも青春の旅にトライしようではありませんか！。

春が兆せばいのち華やぐ園と化す。

思いつくまま

加地行夫

私が歩こう会の仲間入りをさせてもらったのは59年3月、2回生になる間際であった。

それから3年、62年3月にやっと300kmの健歩証を貰ったのだから、その間の参加状況はとても自慢できるものではない。

次の例会に参加するつもりでいても、孫から「今度の日曜日に行くからね」と電話があると、ついその日は欠席する羽目となる。

また、私は夏には弱い。30℃を越すカンカン照りが2、3日も続くと、もう食欲がなくなり何をやる気力も失せてくる。

3年前の真夏、深日町から岬公園を経て、海辺沿いに淡輪公園へ行くコースがあった。照りつける強い日差しを避けて、木蔭岩蔭を縫って行くのだが、時が

経つにつれて額の汗は拭いても拭いても吹き出てくる。口中がねばり目はくぼんでうつろになる。

ようやく淡輪公園に着き小高い丘で昼食することになった。丘にはいい工合に葦簀葺きの棧敷があったので思い思いの席をとる。直ぐ眼下はヨットハーバーになっていて、いろいろな色、形の帆を張ったのや、帆柱だけのヨットが幾十も繫留している光景は珍しくもまた美しい。沖では若者が巧みに帆を操っているし、心よい浜風は汗ばんだ肌を優しくなせてくれる。腹も空いている。当然弁当はうまくなければならぬのに、口中がねばってとても開ける気にもならない。

と、隣の席でうまそうにビールを飲み出した人がいた。私はたまらず厚かましくも少し所望した。その一口の何とうまかったことか。その勢いをかって弁当にお茶をぶっかけ、無理矢理のどへ押し込んだ。

さて、私は岸和田へ移り住んで20年近くなるのに、お城と、久米田寺と水間寺位しか知らなかった。しかし歩こう会に入ってから、泉光寺をはじめいろいろな所へ連れて行って貰った。その上グループのみなさんとお近付きになれば、時には草花の名やその土地の話など、教室ではとうてい得られない勉強をさせて貰っている。また世間話もはずんだりして、ともすれば殻にこもり勝ちな老いの心を解きほぐしてもらえる。まことにありがたいことである。

ところで、最近例会の参加者が様変わりしてきたことは残念でならない。私が参加し始めた頃、ほとんど常連であったような人達が近頃はあまりお見受けしなくなった。中には学校を退められた方もおられるが、名簿に載っていてこられない方も随分おられる。例会に参加するには、私のように孫がどうだとか、というような身辺家事の都合もあるが、やはり健康が第一である。

幸い私は歩くことでは人に負けなつもりでいる。今後とも体に気をつけて、この歩こう会はいつまでも続けて行くつもりである。健やかな老いと、1,000 kmの健歩証を目指して。

集団の中の孤独

金田定之

歩こう会は今年、クラブ結成10周年を迎えた。これは大変よろこばしいことである。私の知る限りでは常に大量会員を擁して堂々の存続であるから、その意義はまことに深いものがあると思っている。ところで私は58年4月に入学し、早速歩こう会に入った。11名の同級生と共にである。

その年の秋、1回生の世話人をきめることになり、同期生に意見を求め、結局私が世話人ということで落ち着いた。

明けて59年3月25日、竹内街道、二上山12kmの先頭リーダーを務めることとなった。諸節さんらと下見に行き、道順はしっかりとノートした。そして頭の中に叩き込んだつもりで当日を迎えたのである。

近鉄あべの橋駅から御所行き準急に参加者29名が乗り込んだ。幸い空いており全員着席でスタート。そこで最初の失敗が待ちうけていた。それは後部2輦は古市駅で切離されることをすっかり失念していたことで、今ゆったり座っているのはその後部2輦目だったのである。皆さんにこの旨を伝え前方車輦へ移動開始、古市からは大方立ったままという有様となってしまった。

さて当麻寺までは、下見だけではなく何回か来ているので、先頭に立っても余裕があったのだが、当麻寺から竹内街道に出て、池の手前を左に入るべきを、池の上を左に入る次の道順ととり違えて進んでいたら、後方より声あり「左へ折れてくれ!」、第二の失敗は突如やって来たのである。二上山登りは無難にこなし、叡福寺への道となった。〔お前は足早だから歩幅を短めにして皆さんと調和をとれ〕と時々言い聞かせながらである。

叡福寺からは寺裏の石棺を見学して、すぐ上の団地を通り抜けて上太子へ歩くのが道順である。団地の入口は急坂で速度がゆるむ。団地に入りほっとして後を

見ると後詰の旗が見えないではないか。これはいかん歩度をゆるめ団地の出口あたりで合流しようと思ったが、道は下りで自然と早くなる。新米の悲しさであろう。出口で一息入れたがまだ後続は見えない。道を違えたかなの思いがちりり脳裡をよぎる。が、リーダーは次の行動をしなければならない。ままよと上太子へ歩き始めた。

このあたりから私の素振りに気がついたのか、永田さんが親衛隊といって私の横に来てくれた。内田さんも来てくれた。この人達の友情に支えられて新米リーダーは平気な顔をして歩いているのだが、道順はこれで良いのか、間違っただ方へリードしていないかとむなしい思いはながながと続いた。上太子駅の看板を見てああ良かったと胸をなでおろしたものである。後続が諸節さんのリードで到着したのは約10分後であった。

リーダーは集団の中に居て、ほんとうに孤独なのだと思つづく思つた次第である。

汕頭市を訪れて

崎田小香枝

中国は古来大国である。現在奈良シルクロード博が開かれているが、シルクと共に中国から文字、宗教、文化が日本へ伝来して来た。中国と日本の関係は長くかつ深い。粘り強い民族はある時代の苦境を乗り越え、中華人民共和国が建設されて以来、中国は動き始めている。この度の汕頭訪問で凡ゆる面の国力の充実を目のあたりにした。

広東省東部の汕頭市人民政府は人口800万人（市街地73万）2市（潮州市を含む）8県、5区（経済特別区域2区を含む。経済特別区域とは、外国の自由投資を歓迎している区域で、外国の技術利用、外資導入のため海外に対し門戸を開

放するとともに、国内の生産力向上を目標に自由化の施策である）。汕頭は韓江流域の物資の集散地で貿易額も少くない。開港して120年、近来急速に発展した都市。深い入江の港は海産物も豊富、水稻は二毛作、中国でも人口密度が高く、中国北部より生活レベルはいいように見えた。

汕頭訪問の目的は5月8日午後4時開催の第一回汕頭母親節（まつり）は、我々訪問団5名とオーストラリア（汕頭大学教授）東南アジアの華僑等内外の母親を招待して祝賀された。幼稚園児の手づくりの造花が母親達に捧げられ、表情豊かに遊戯も披露された。集った母親達との晩餐会后、宿舍の迎賓館の一室で婦女連（中国唯一の婦人会）との交流会は午後8時半より始まる。中国婦人の大多数は共稼ぎなので、男女共に学習すること、また中国は義務づけられた一人っ子政策、保育も教育も同様完備されつつある。

第一回汕頭婦女即席書画会は5月10日午後開催され招待を受ける。一堂に集った汕頭を代表する書画家は20名。即席に書画を披露、筆致の巧みさ、素晴らしい出来ばえに我々訪問団は驚歎するのみ。

汕頭は広東語。華僑の発祥の地とも言われる汕頭。華僑は世界中どこへでも出かけて、そこに新天地を開拓する能力は到底日本民族の及ぶところではない。華僑は東南アジアではつねに経済的実力者である。中国にとっては大きな財産。エリート大学の汕頭大学も香港の李嘉誠氏の3億4千万香港ドル（日本円約54億円）の無償の寄付を基金に建設され、5年前に開設された重点大学である。

近代都市化が急速に進展している汕頭市民の顔は明るく生気に満ちている。婦人も男性同様その一翼を担い堂々たるものであった。

カナダ旅行記

軒 隆

アメリカ人が観光を希望する三大名所は、グランドキャニオンとディズニーランドと三つ目はナイアガラ瀑布だそうである。この瀑布も、アメリカ瀑布より、規模や景観でダイナミックなカナダ瀑布の方を、パスポートを持参して観光するのである。その瀑布を私が観光したのは、6月17日。成田を前日の午前、全日空に乗り、12時間飛行してワシントンに着陸、乗換えてカナダの首都トロントに着陸した。日付変更線を通すため、16日が2日ある事になる。

飛行場の片隅に日航マークのジャンボ機が着陸保管してあった。3日後に開かれるサミットのため、おそらく竹下首相が来られた飛行機であろうと思う。各国の要人が来られるために警備がきつく、特に日本人は赤軍として有名であり、恐らくトランクの中味の検査もきつい事だらうと覚悟して、税関に行くと、なんと軍隊・巡査の一人もおらない。トランクもそのままであり、有難い事だが拍手抜けがした。おそらく国民性の違いだろうと思う。トランクの中味を調べられると、整理して元へもどすのに苦労するからである。ひょっとすると入らない事がある。

我々のホテルは、窓から滝が丸見えの「ナイアガラフォールズ」に宿泊する。いよいよ明日17日は瀑布観光である。その日も快晴であった。

ナイアガラ瀑布は、五大湖の一つのエリート湖から源を発してナイアガラ川に、そして50mの落差にて一気になだれおち、幅670mと共に、これが世界最大の滝、ナイアガラ瀑布である。そのハイライトは遊覧船「霧の乙女号」に乗り、滝壺に接近する滝見物である。川沿いの道路から、川べりまで30m程をケーブルにて下り、遊覧船に乗る。フード付の雨カッパを借り、完全武装で乗船するが、出発して間もなく、左側にアメリカ滝が見え、次に前方にカナダ滝が迫ってくる。

地ひびきに似た水音、ものすごい水煙、唯々感激するばかりである。そのカナ

ダ滝のすごさはアメリカ滝と比べものにならない。前方は水煙で、水面は洗剤のような泡がたっている。耳をつんざくばかりの異音に、霧というより、豪雨という程の水しぶきがカッパの内側まで浸透して、そのために目もあけられない程。勿論メガネも役たたず、カメラも使えない。霧の乙女号というより、豪雨の乙女号というのがぴったりだ。

小学生位の団体20人程が乗っておったが、にぎやかな事、キャーキャーという悲鳴は日本語と同じである。これは万国共通語か？。そうこうしている間に、乙女号はUターンして、すこし楽になる。この料金は6カナダドルで、日本円で約600円である。おそらく日本では商魂たくましい商人が3,000円も4,000円もとる事だろうと思っている間に着岸したが、ズボンのすそと靴は完全に濡れてしまった。もう再び来る事はないが、もし来る事があれば、自分の上下の雨カッパを持って来よう。

夕食後、町を散策したが、大橋巨泉さんの店をはじめ、大きな土産店には、日本人が常駐しており、日本語で通じる。特に巨泉さんの店は、スタッフ全員が日本人であり、夜おそくまで営業している。有難い事だが、わざわざカナダに来た事も忘れ、心齋橋で買物しているのかと感違いする程である。だが日本の人は財布がブームでお金持か、買物がお好きのようだ。

いよいよ明日はトロントからカルガリーまで飛び、万年雪と氷河と、道路脇に熊が日光浴しているという「カナディアンロッキー」の観光である。

住 め ば 楽 し

森 富 香

「自然の中へ」の投稿のため、これ幸いと、あちこち旅のガイドブックをめぐって見たものの、今年の夏は不安定な天候続きで、つい時期を逸してしまった。

狭い我が家の窓越しに、和泉山脈が横一に見える。866 mの葛城山、その左続きに岩湧山があるはずである。私が朝晩眺められるのはこの和泉葛城山と、その右の方へなだらかに海へおちて行く峰々である。山の手前は小高い山から丘へと三段に色分かれ、晴れの日、雨の日と色を変えて楽しませてくれる。

この夏は早い梅雨明けで、長い暑さ続きではないかと案じていたところ、これ又もどり梅雨のだらだら雨天。雨はうとうしいものではあるが、葛城山を見ていると妙に心落ち着き、玻璃戸越しに、雨の風情を堪能するのである。蛇笏先生の句に

秋口のすはやとおもふ通り雨

このような情景はまま見られるのであるが、作句したことはない。詩情乏しい所以であろう。いずれにしても雨あがりは一層美しい。

ベランダから10 m程はあろうか、フェンスの先は池である。案外広いこの灌漑用の池に山並が影を落としている。老眼の網膜に白鷺の羽ばたきは美しくよく写る。

年の瀬近くになると水は落とされて池は小さくなる。寒鯉や鮒を揚げている光景も見られる。池が涸れると、凧をあげる親子がゆっくり糸を操っている姿もほほえましい。池の真ん中の少しばかりの水の中に、鳩（かいつぶり）らしい水鳥がもぐり、餌を捉えている風姿は愛嬌があり見あきない。

以前、この池の西側は畑を隔ててみかん山もあり、みかん狩の人声や、軽妙な音楽もスピーカーから流れたものだが、近頃は住宅や〇〇短大なども進出し、緑も少なくなってちょっと淋しい。早春に鶯の初鳴きを聴くと、身内がぞくぞくする程春への誘いを強く感じたものだった。残暑のこの頃は蝉しぐれで一段と汗がふき出しそうであるが、夜ともなれば早や秋の虫が鳴き出し、季節の変わりを教えてくれる。

先日、長男夫婦が久しぶりに訪れてくれた。大阪市内に住んでいる彼等は、こ

のむさくるしい部屋の窓から外の景色を見て、嫁いわく別荘に来ている様だと、嬉しいことを言ってくれる。窓の下には、白つめ草が緑のじゅうたんを敷いたようだし、池の端の松、山の峰へ続く木々の緑、水を一杯に湛えた池面を吹いてくる風はさわやかである。成程、そうか、私は別荘に居るのだ、どこかのご隠居さんで一人暮らしの自由気儘な暮らしを楽しんでいるのだ。

嫁の一言で私の心は華やいだ。子ども達の家へ時たま泊りがけで行っても、心は早やこの緑の中の別荘へと飛んで帰ってくるのだ。住めば都というが、見わたせば、手のとどくところに、自然がいっぱいの楽しい暮らしである。

わが町の歩こう会

諸節光吉

今年8月、私がお世話をさせてもらっている老人クラブの歩こう会が、府老連（大阪府老人クラブ連合会）から63年度の社会参加モデル推進事業の指定をうけることになり、その説明会にも同席させてもらった。府下全体で8件、健康づくりの部門はうちだけであった。年度末にはレポートを提出するよういわれ、また、申請してパスすれば国から助成金もいただけるという有難いお話しであった。レポートは冊子となり大阪府下の老人クラブは勿論、全国都道府県の老連にも配布されるとのことである。一体どうしてこんなことになったのか、ふと思うことがある。

昭和53年、健老大学が開校。ひやかし半分で応募し、最初のクラブ歩こう会を作ろうという話しがでたとき、これもひやかしで出席したところ、出席の男性は全員世話人というおかしななりゆきで世話人にさせられてしまった。以来幾年。お蔭で地元の道は大体わかったような気がした。世話人の皆さんと地図をひろげでは独自のコースを開拓していったのも楽しい思い出となっている。

また、すすめられるままに比較的老人仲間の多い山岳会にも入れてもらい、これまでとちがった経験もし、地図を読む楽しみも覚えはじめた。そんな折、同じ町に住む今は亡き高垣老人会長（元健老大学自治会長）から、南上町にも歩こう会を作ってほしいと頼まれ引受けることにした。

難かしいことは何もなかった。健老大学歩こう会の分家のつもりであった。第1回目は例によって泉光寺、25名参加、手提袋にスカートスタイルが目立ったが別に気にならなかった。全体として大学の第1回の時よりは整然としているなあと。次からズボンをはいてくるようにいったら、そのうちの2人は、今までそんなものはいたことがないと、その後来なくなった。

驚かされたのは金熊寺からお菊山に登った時のこと。金熊寺で点呼をとると、和服姿で、白足袋、草履ばきで、どこに行くのもこの恰好ですとすましている方がいたが、不服そうにしていたが帰ってもらった。いつまでも話題になることがある。

以来7年、昨年暮れの牛滝山での納会（参加者60名）の折の写真と第1回泉光寺の写真をならべ町の機関紙にのせた。第1回に参加した仲間のうち5名は世を去っている。一緒に入ってもらった老僧も既に過去の人となってしまった。なつかしさと、胸の痛むおもいと。

最近他町からの参加希望の方が増える傾向にある。いずれは会の運営もかえねばならぬ時が近づいているように思っている。

とにかく頑張らねば。ファイト。ファイト。ファイト。

追記

病院の一室。外はもう暗い。

交通事故で頭痛をうったえる妻の枕元で、泣きたいような気持ちをおさえてペンをとりました。

(昭63. 9. 5)

歩こう会10年を顧みる

山本光男

昭和53年8月4日の第1回の泉光寺詣りに、35名にまじって歩いてから、今年の7月末で満10年になる。回は186を数える。踏破も2000kmになったであろう。

記録を調べてみると、74ヶ所の、神社仏閣、名所旧蹟を訪ねている。

神於山14回、緑と太陽の丘13回、葛城山11回、松尾寺8回、水間寺8回というところが、ベストファイブである。

もし、歩こう会に参加していなかったら、このうちの10ヶ所も行けなかったであろう。こんなに沢山の、未踏の名蹟を訪ねることが出来たのは、諸節光吉さんを始め、多くのリーダーのお蔭であると、今更ながら感謝の気持で一杯である。

私が歩いたのは、1300km足らずで、はずかしい次第である。

その間、誰に頼まれたわけでもないのに、専属のカメラマン気どりで、第1回から出席した時は、必らず、さまざまな写真を撮ってきた。大型のファイルに綴じたアルバムが、6冊も出来ている。

第1回から今日まで、参加した顔ぶれは何百人になるかしらん。

アルバムを繰ってみる。

石原ユリさん、池田勝之進さん、西口仁一郎さん、広瀬イセヨさんの顔が見える。

今は亡き、井上亀太郎さん、角谷三郎さん、奥芳太郎さん、松井衛さんの元気な姿がうつっている。

みんな、いい人達だった。

あの頃の楽しい色色が、次つぎと思い出される。

54年2月11日、慰霊塔前の広場で、27人が車座になって、意見の交換会をした風景。

その年の5月13日、葛城山頂から犬鳴山への難コースで、尻餅ついでのはっきり声。

その他、馬の背をつたってお菊山にたどり着いた時のこと。

傘と合羽とで、奥水間を歩き、道陸さんに雨乞いするまでの、びしょびしょ、濡れ単の格好。

相川口から葛城登山道に、迷い迷って、難儀した時、山舗淑さんの眼鏡が谷川に飛んでみんなで大きがし。

56年10月25日、はじめて拝の峠の急坂を越した時は、こんな所に住んでいる人もあるものかと驚いたものだ。

アルバムを次ぎつぎと繰ってみると、さまざまな思い出が、広がってくる。今は第1期生の現役は、北沢玄次郎さんと2人っきりになってしまった。

10年経つと世が変わるものかなあと、淋しい思いがないでもない。

いやいや、まだまだ。頑張って歩こう。

若い皆さん、よろしく頼みますよ……………。

1988. 9. 10

昭和63年(1988年)11月

自然の中へ 第9集

岸和田健老大学歩こう会

代表世話人 金田定之